

第二章 鎮靜劑—麻醉劑

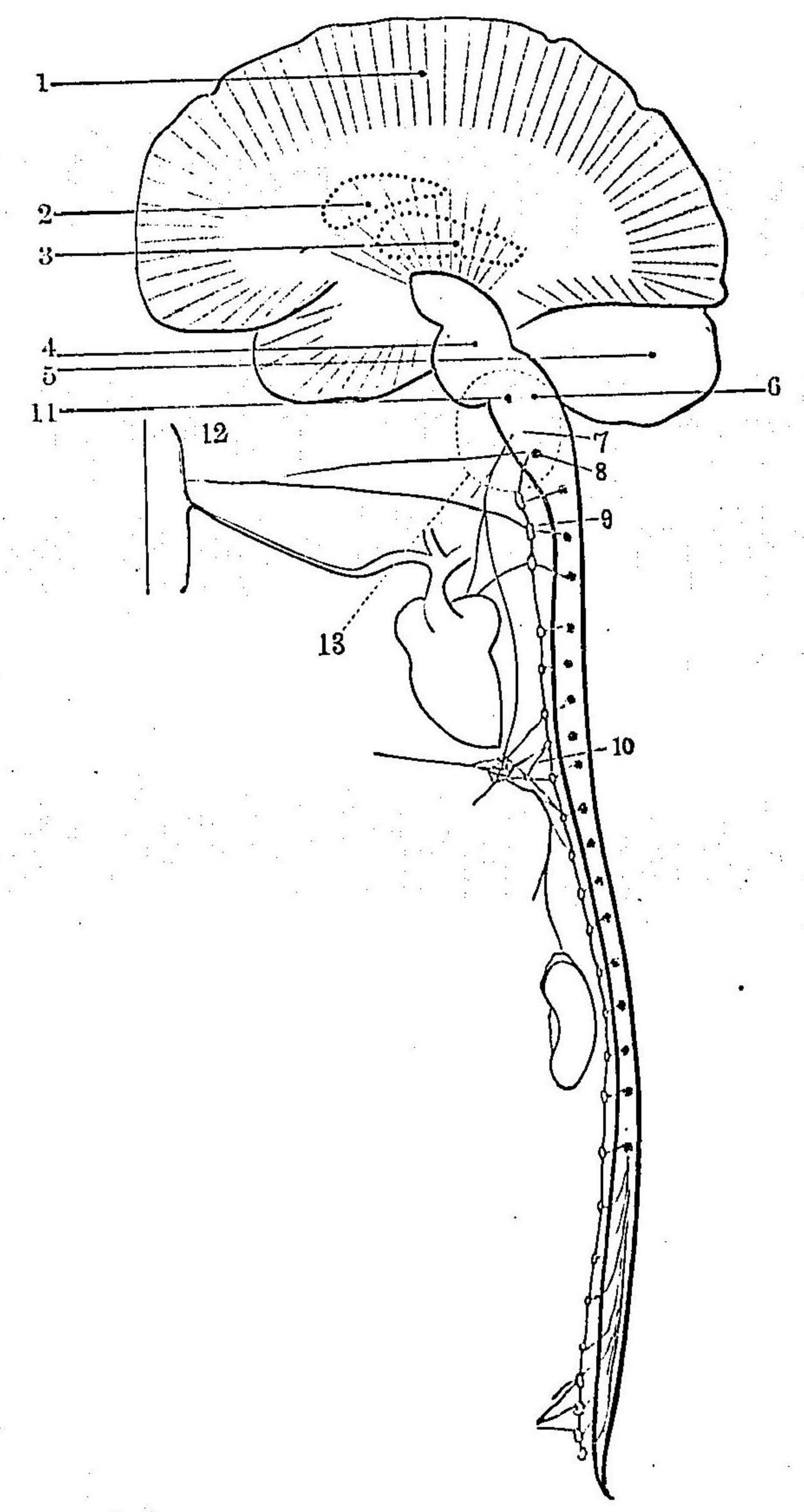
、フォルム」ノ爲メ麻酔ヲ來シ易キ者ニ向テ最モ撰バルベキモノナリ是レ本劑ガ循環系ヲ侵スコト少キニ基因スサレド又揮發シ易ク且ツ其蒸氣ノ麻酔力クロ、フォルム」ヨリ弱キヲ殆ント二分ノ一ニ當ルガ故多量ヲ要セザルベカラザルヲ或ハ呼吸系粘膜ヲ強ク刺戟シ其害時ニ施麻酔者ニマデ及ブ「アルガ如キハ即チ本劑ノ缺點タリ依是本劑麻酔ノ施行ニ方リテハ特ニ一定ノ準備ヲ要スベシ

一 大氣ノ混合ヲ以テ之ヲ稀釋シ其刺戟ヲ減少スベシ但シ大氣混合ノ量ニノ極メテ多ク例之ハ抱和ノ狀ニ於ケル如キハ却テ亢奮期ヲ長カラシムルヲ過度ニ亘ルベキガ故大ニ節スルヲ要ス

第二十六圖 解説—青色ハ麻痺ヲ表示ス

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| 1 大 腦 | 2 基 底 部 | 3 神 經 節 |
| 4 フロル氏橋 | 5 小 腦 | 6 延 髓 |
| 7 迷走中樞 | 8 脈管運動中樞 | 9 交感神經頭 |
| 10 太陽叢 | 11 呼吸中樞 | 12 毛細管断面 |
| 13 晚期作用區域 | | |

圖 六 十 二 第



二 「タオル」ヲ被ヒテ眼ノ「エーテル」蒸氣ニ刺戟セララルヘキヲ避クベシ

三 鼻腔、口腔、口唇等ノ粘膜ニグリセリン又ハワゼリンヲ塗沫シ或ハ「コカイ」
ン「鹽」ヲ用キテ均シク其蒸氣ノ刺戟ニ對シ庇護スベシ長ク光線ニ觸レタル「エー
テル」ハ漸次酸化シ、特ニ游離醋酸ヲ吸收スルコト多ク、以テ吸入時呼吸器刺戟ノ
因ヲナシ時ニ肺水腫肺炎ヲ起サシムルコトアリ、故ニ必ズ純品ナラザルベカラ
ズ

四 本劑蒸氣ガ不快ニシテ吸入時窒息的感覺ヲ與フベキモノナルコトヲ豫
メ患者ニ通告シ以テ突然驚カサレザルニ供フベシ

五 「エーテル」蒸氣ハ爆發性ヲ有スルガ故夜間瓦斯燐或ハ通常燈火ノ傍ニ於
テ若クハ燒灼器ヲ用ウル際ニ方テハ用ウベカラズ本蒸氣ハ空氣ヨリ重キヲ以
テ自然室ノ下層ニ瀰散シ時ニ遠隔セル火焰ニ達スルコトアルベキニ依リ又假
令晝間ト雖火氣ヲ避クルノ要アリ、唯一ノ安全燈ハ完全ニ封セラレタル白熱電
燈ノミトス

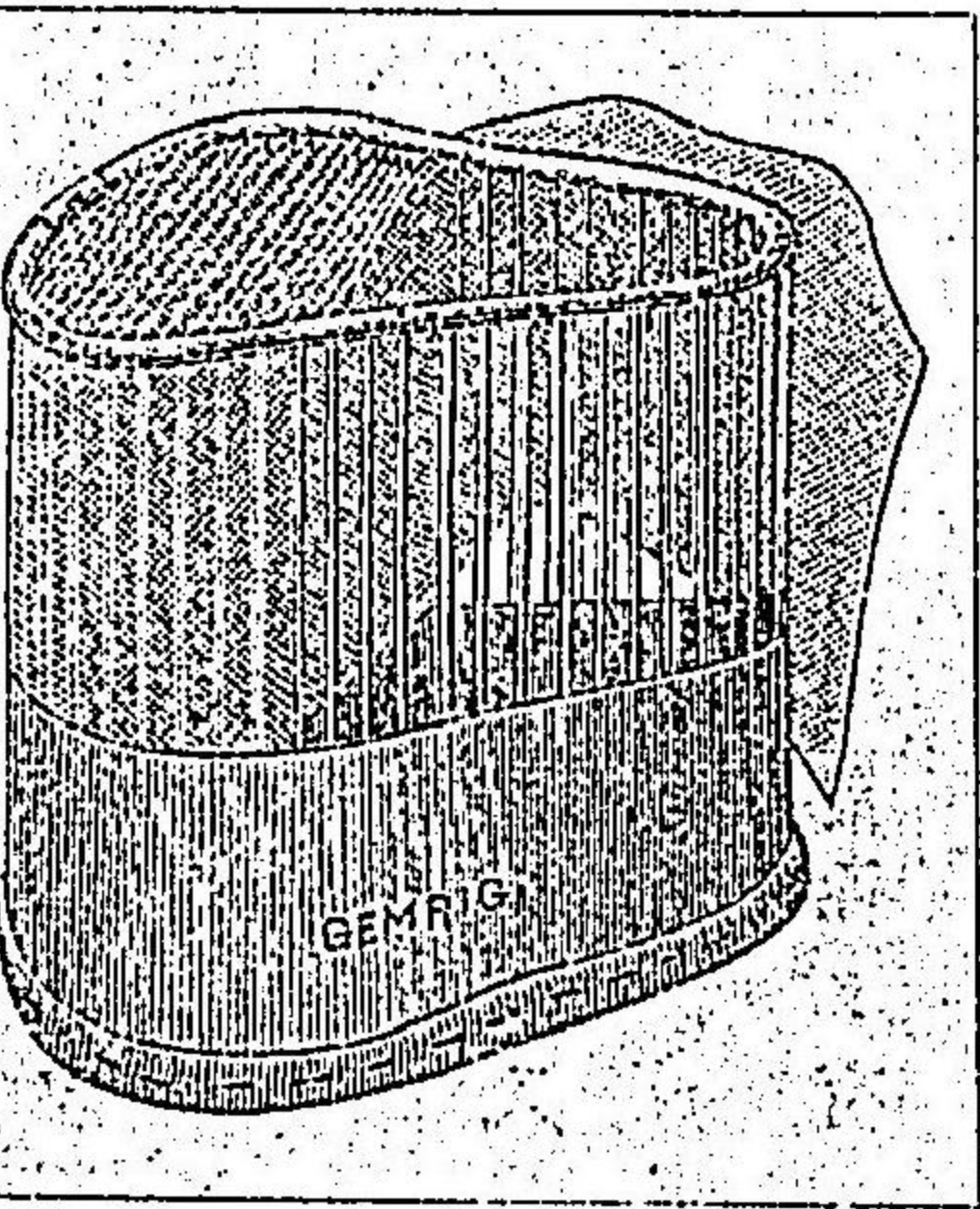
アリス氏假面 *Alice's Mask*

第一章 鎮靜劑—麻酔劑

第一章 鎮靜劑—麻酔劑

構造 録及「ゴム」ヨリ成レル筐ニシテ其上面ニ「モスリン」ヲ被ハレ壁ノ格子様間隙部ニハ紗布ヲ纏ヒテ蒸氣ノ逸散ヲ防ギ或ハ大氣ノ供給ニ便ス(第二十七圖)

用法 アリス氏假面ハ大氣混合ニ適スルモノニシテ其下縁「ゴム」部ヲ顔面ニ抵置シ數々「モスリン」上ニ十數滴ノ「エーテル」ヲ滴下シ以テ吸入セシムルニセ



リ這際大氣ハ側面ノ紗布ヨリ吸引在ラレ「エーテル」蒸氣ト混和スルヲ得ベク麻酔進行ノ状態ニ際ミ多量ノ大氣ヲ要スルキハ側面紗布ノ一部ヲ開キ之ニ反シ大氣ヲ節セザルベカラザルトキハ更ニ厚キ布片ヲ以テ側面ヲ被フベシ

「エーテル」吸入ニ際シ鹽化「アドレナリン」ヲ共ニ用ウルトキハ「エーテル」ノ刺激ニ依リテ増進セラルベキ氣管分泌ヲ制シテ呼吸ノ調整ヲ完フシ傍ラ肺炎

第二十七圖

アドレナリン
クハエセルハ
注射後ハ
エーテルニハ

誘發ノ憂ヲ掃ヒ、施術部ノ出血量ヲ減スル等ノ利アリ其法假面上ニ「エーテル」ヲ滴下シタル後次テ其上ニ鹽化「アドレナリン」液ノ廿五%水溶液ヲ滴下シ三分乃至六分時間之ヲ吸入セシムルニ在リ而シテ右「アドレナリン」液半「オンズ」一「オンズ」ハ三十分—六十分間安全ナル經過ヲ與フルニ適セリ「ヴェネーブル氏 Venible」或ハ又吸入一時間前硫酸「アトロピン」〇・一%液ノ半筒ヲ皮下ニ注射スルモ可ナリ

用量 吸入量二〇〇—五〇〇

禁忌 心臟ニ及ホス危險クロ、フォルム「ア」如ク大ナラサルヲ以テクロ、フォルム「禁」忌ノ状態ハ本劑施用ニ對シ彼ノ如ク嚴ナラサルベシ但シ比較的少量ヲ要スルカ故其排泄器管タル肺臟及腎臟ニ向ヒ特ニ障害ヲ殘スヘキ虞アルニ依リ健康ナラサルヘカラス尤モ這ハ「クロ、フォルム」ニ由來セルモノニ比スレハ永久性ナラス又重大ナラサルベシ

主治以外全身の應用 亢奮藥トシテ拔齒時昏倒ニ對シ一回〇・五—一・〇ヲ皮下ニ注射セラレ奏効不確ナルトキ更ニ一二回ノ反復ヲ以テセラル

第一章 鎮靜劑—麻醉劑

局處的應用 凍冷麻痺藥トシテ神經痛或ハ眼瘻切開ニ際シ噴霧セラレ或ハ牙質知覺過敏面ニ於テ揮散セシメラル—反對刺戟藥トシテクロ、フォルムノ如ク短管法ヲ用キラル—溶媒トシテ水ニ溶ケザル樹脂、油、沃度、フォルム等ノ溶解ニ資セラル

麻醉的危險救治法

亞酸化窒素、クロール「化」エチル、エーテル及通例、クロ、フォルムニ因ル危險ハ呼吸麻痺ニシテ其狀ノ單純ナルトキ適當ナル方法ヲ以テ回復ヲ豫期セラルベシ唯、クロ、フォルムニ由來セルモノハ其狀、假令單純ニ認メラルト雖常ニ心臟ニ於ケル重大ナル沈衰ヲ伴ハレ時ニ其麻痺ヲ繼發セラル、コトアリ此麻痺狀態ハ即チ死ヲ意味スルモノナレド脈搏鼓動ノ喪失ニ達フテ直ニ此麻痺ヲ斷スルハ早計ニ失スベシ何トナレバ、クロ、フォルム「ン」爲メ鼓動ハ其周圍脈管ニ於テ感知シ得ラレザルマテ衰微スベクレバナリ這際心臟ノ實狀ヲ確定スベク時間ヲ浪費スルハ戒ムベキコトニシテ速ニ人工呼吸法ヲ取ラザルベカラズ其忠實ナル繼續ヲ以テスルトキハ心臟ノ實狀ハ忽チ現ハルベシ蓋シ人工呼吸法タルハ酸素供給ヲナスニ止ラズ肺臟ノ各擴張毎ニ右心室ヲ空虚ニスルコトヲ扶掖シ而シ各收縮毎ニ心臟ノ左側ニ向テ血液ノ供給ヲ更ニ大ナラシメ以テ右心室ノ充血ヲ驅除スルガ爲メ心臟ノ作用ヲ容易ナラシ

ムルモノナリ

是ヲ以テ呼吸過止ニ對スル每常不可缺ノ救治法ハ新鮮空氣流通ノ裡ニ於テ施スベキ人工呼吸法ニシテ夫ハ患者自然ノ呼吸ヲ回復スルマテ又ハ絶望ノ確定セラルマテ忠實ニ繼續セラレザルベカラズ但シ當時麻醉劑ノ供給ハ固ヨリ之ニ先チテ撤去スベキモノトス

此他呼吸及心臟亢奮藥ノ皮下注射モ時ニ要求セラルベク「コカイン」中毒時ニ於ケル「ストリヒニン」「アトロピン」「カフェイン」「ギタリス」等同様ニ用ホラル「アムモニ」ハ吸入ニ依リ芳香「アムモニ」精ハ内服ニ依リ又換バルベシ若シ如上方法ニ由テ呼吸回復ノ困難ナルキハ擴張器ヲ肛門ニ挿入シ其反射影響ヲ中樞ニ試ムベシ偶然ノ呼吸過止ニハ頭ヲ低下シ舌ヲ前方ニ牽引スルモ亦一法ナリ「鹽酸」コカイン「論參照」或ハ又下顎骨ヲ前方ニ牽引シテ會厭軟骨ノ位置ヲ高メ以テ鼻腔ヨリ喉頭ヘノ通路ヲ眞直ナラシメテ呼吸ノ容易ニ供ス然後人工呼吸法ヲ施スベシ

各麻醉劑ノ比較

通常施用法ニ於テ最モ安全ナルモノハ亞酸化窒素之ニ雖「クロール」化「エチル」及「エーテル」ニ「クロ、フォルム」ハ比較的不安ナルモノナリ「サレド」其麻酔力ニ至テハ最モ強ク之ヲ「エーテル」ニ比スルニ中樞系ヲ侵スノ度ハ三倍—三倍半ニ心臟ヲ侵スノ度ハ三・六倍—四・八倍「カシニ」氏「Cushing」或ハ五倍「ロング」氏「Long」ナリトス尙ホ各

第一章 鎮靜劑—麻醉劑

器管及ホス作用ノ比較ハ次ノ如シ

「エーテル」

麻醉 徐々ニ起リテ淺ク亢奮期長ク
麻酔期短シ醒覺速ニシテ殘餘症少シ

「クロロフォルム」

迅速醒覺ニシテ亢奮期短ク麻酔期長シ
醒覺後殘餘症最モ多シ

亞酸化窒素

最モ迅速ナルモ動ニレバ醒覺ス殘
餘症常ニナシ

呼吸 血壓減少ノトキハニ喪失シ
大量ニ依レバ中樞麻酔ス又筋弛緩ニ
方リ呼吸筋弛緩ヲ起シテ遏止スルコ
トアリ

心臟 并ニ脈管運動中樞ノ侵サル
コト微弱ニシテ完全麻酔時尙ホ脈波
曲線ニ變化ヲ見ズ

勿論血液マテモ強ク侵サレハ心臟麻
痺スルコト數々アリ

反射機 多クハ著シク亢奮シ角膜
反射ノ減退遅久且全ク消失セズ

常ニ全ク消失ス

筋肉 強直スルモ其經過緩慢ナリ

稍強ク然後弛緩ヲ來ス

變性 蛋白質分解ヲ増成セズ隨テ其
結果タル脂肪變性ヲ生ゼザルガ如シ

脂肪變性ヲ生ジ易シ

殊ニ下頸筋ヲ強直セシムルコト最
モ多ク其弛緩極メテ遲シ
之レナシ

嘔吐ヲ數々發シ這ハ覺醒後モ來ル
コト多ク尙發熱狀態ヲ殘餘スルコト
多シ

嘔吐全ク之レナク過量時假死狀態
ヲ招クコトアリ

副作用 吸入ノ初期嘔吐ヲ來スコ
トアルモ醒覺後ハ之レナシ又過量時
絶脈ノ微ナキ全身痙攣ヲ起スコトアリ
「アールン氏」(Hartman)

混合麻酔法

「エーテル」イ合劑 A.C.E. Mixture 「アールン氏」(Hartman) 「Alcohol」一容「クロロフォルム」(Chloroform) 二容「エーテル」(Ether) 三容ヨリ成ル混合麻酔劑トシテ特ニ用キラレタルモノナル
モ現今ハ稀ニ用キラル、ニ過ギズ要スルニ亞酸化窒素又ハ「クロロル」化「エチール」ト
「エーテル」トノ混合ノ他ニ於テ推薦ヲ強ヒ能フモノナシ蓋シ各液ノ比重及揮發度并
沸騰點ニ於ケル相異ハ夫ヲシテ各蒸氣ノ如何ナル割合ガ含有セラル、ヤチ知ルニ
困難ナラシムレバナリ

ソムノフォルム Somnoform

本劑ハ發見後日尙淺ク從テ實踐的効驗ト其藥理トノ確定ヲ與フルコト能ハ
ズ然レモ概近之レガ施用ハ特ニ我齒科醫界ニ向テ盛ニ推薦セラレツ、アルヲ
以テ從來實驗ノ合一セルトコロヲ取テ叙述ノ資トナセリ

第一章 鎮靜劑—麻醉劑

AOE

本劑ハ混合麻醉劑ノ一種ニシテ最近佛國ボルドウ市ノ齒科醫學校長ドクトルローラン氏 Loutand ニ據テ發見セラレ稀薄類黃色揮發性液ニシテ不快ナル強烈臭ヲ有セリ本劑百容中クロールエチール六十容、クロールメチール三十五容、ブロームエチール五容ヲ含有ス非局方藥

「クロールメチール」 Methyl-chloride CH_3Cl ハ無色ノ瓦斯ニシテ「エーテル」臭ヲ放チ綠燐ヲ發シテ燃燒ス常溫ノ下ニ五氣壓ヲ加フレバ濃縮シテ液化ス

「ブロームエチール」 Ethyl-bromide $\text{C}_2\text{H}_5\text{Br}$ ハ無色澄明揮發性液ニシテ「エーテル」臭ヲ有シ比重一・四五三—一・四五七沸騰點攝氏三十八度—四十度ナリ(日本局方藥)

本劑ハ之ヲ體表ニ於テ揮散セシメラル、并凍冷性麻痺ヲ起シ其揮散ヲ妨ケラル、トキ引赤乃至水泡ヲ來スコト他脂肪體麻醉劑ニ於ルト異ナラズ之ヲ吸入スルヤ其不快ナル強烈臭ノ爲メ用量僅少ノ際ト雖氣道粘膜ヲ刺戟シテ分泌増進咳嗽等ヲ起サシム而シテ吸入ヲ持續スルコト通例二十秒乃至三十五秒藥量ニ於テ約三四ガロンナルトキハ麻醉ヲ完成セシムルヲ得ベク此期ニ在テ每常現發スルトコロノ状態ハ反射機ノ喪失及筋肉ノ弛緩是レナリ之ヲ以テ本劑麻醉ハ外科的施術ノ適應期ヲ速カナラシムルコト亞酸化窒

素ニ優リ且其持長モ亦彼ノ上ニ在リサレド常例ノ如ク嘔氣、頭痛、眩暈、沈澀等ヲ醒覺後ニ殘貽スルハ缺點ナリ
本劑ヲ吸入セシムルニ方リテ其不快ナル刺戟性ヲ減弱セシムル爲メ常ニ大氣ノ多量ヲ混シ以テ之ヲ稀薄セサルベカラス大氣混合ニ便ナル假面ハ何レモ之ヲ用ウルニ足ルベシ

備考

ウツド氏 Wood ハ曰ク其揮發性、比重、沸騰點等ニ於ケル各藥ノ相異ハソコノフオルム容器ヨリ假面上ニ噴霧セラレタルトキ能ク目的ノ配伍ヲ具エ居ルコト極メテ困難ナルヤ明カナルモノナルヲ以テ斯ル混合物ノ効驗ハ一ノ奇蹟トシテ見ルベク不安定ナルガ故ニ推薦スルコト能ハズト

第二節 催眠劑

催眠劑 Hypnotics トハ大腦機能ヲ遲鈍ナラシメテ、五官ノ感受性并ニ外界刺戟ニ對スル感念ト注意トノ減弱ヲ來サシメ以テ安靜ナル睡眠ヲ催促スルトコロノ藥物ヲ指稱スル者ニシ、此屬藥物ハ同時ニ脊髓ノ衝動ヲモ緩解セシメ得ヘシ

本屬藥物トシテ其施用ニ適スル性狀ハ水ニ溶解シ易キモノナルニ在リ、蓋シ胃内ニ輸シタル後平等ニ擴布スルカ爲メ、粘膜炎ヲ刺戟スルコト少ク、且其吸收平等ニシテ、作用徐ロニ起リ、持長シ得ラル、ヲ以テナリ

抱水クロラール トリクロールアルデヒド

Chloral Hydrate—Trichloraldehyd $C_2HCl_3O \cdot H_2O$

無色透明乾燥結晶ニシテ、揮透性臭氣ト腐蝕性ニシテ、稍々苦キ味ト有シ、攝氏五十八度ニ於テ熔融ス、水「エーテル」酒精ニ溶解シ易ク、脂肪油、硫化炭素ニ僅カ溶解シ、尙ホ五分ノ「クロ、フォルム」ニ徐々溶解ス、〔日本局方藥—劇藥〕

生理的作用

局處的作用

局處ニ用キラレタルモノハ其稠度ニ準シテ刺戟ヨリ腐蝕ニ亘ル作用ヲ致スヘシ故ニ、胃ニ攝取セラレタル稠厚ノモノハ、加答兒ヲ誘發ス、斯ノ如キハ凡テ本劑作用ノ主働タル「クロール」含量ノ多少ニ關スルモノトス

吸收的作用

本劑ハ粘膜炎下組織、及漿液膜等、ヨリ吸收セラレ、其量普通藥用ニ適スル〇・五乃至二・〇ナルトキハ、麻醉狀態ヲ除クノ他殆ンド「クロ、フォルム」ニ類スル作用ヲ呈シ、只其不揮散性ニ依リテ、彼レヨリ持長スルノ差アルノミ、本作用ハ、大腦ニ向テ始メラレ、次テ脊髓ニ終ルモノニシテ、大腦ハ亢奮性減少ノ爲メ、睡眠ヲ催シ、瞳孔縮小ス、此睡眠中ハ、皮膚脈管ノ擴張ニ基キ、體温ノ發散ヲ増スカ故ニ、往々感冒ニ襲ハル、コトアリ、但シ此經過間ニ在テハ、疼痛ノ除去セシメラル、コト難シ延髓ニ在テハ、呼吸及脈管運動中樞ノ減衰ヲ生シ、爲メニ其司宰ニ與ル機能緩徐トナリ、脊髓ニ在テハ、極メテ僅微ノ反射機減退ヲ來シ、或ハ時ニ殆ンド侵サレサルコトアリ、循環系統ニ在テハ、心動緩慢薄弱トナリ、毛細血管ハ中樞及心臟機能ノ減衰并ニ脈管壁筋肉外皮ニ加ヘラル、其直達作用ニ依テ沈衰ス、此他尙ホ體內酸化作用ノ減耗ニ基キ、蛋白分解ハ増大セラレ、特ニ本量ノ持長時ハ、其結果トシテ、各器官ノ脂肪變性ヲ生スヘシ、藥用量ノ持長ハ、管ニ之レニ止ラズ、慢性中毒ヲ來シ、消化障礙、皮膚疹、口腔粘膜炎、及結膜炎ノ炎症ヲ發ス、尙劇シキトキハ、酒精中毒

ニ於ケルカ如ク呼吸、脈搏ノ異常殊ニ體力並ニ精神力ヲ消耗シ、適々後用ヲ廢ス
バ禁忌現象ヲ呈スルニ至ル

五〇以上ノ吸收セララル、ヤ大脳ハ忽チ全ク麻痺シ、勿論所謂亢奮期ヲ缺如ス
更ニ多量ナルルルハ終ニ脊髓モ麻痺シテ反射機全然喪失ス、本劑ハ其排泄セラ
ル、コト甚タ遲緩ナルカ爲メ、以上ノ大量ハ延テ延髓ヲモ麻痺セシメ得ベク、而シ
テ本中樞ニ於テハ就中脈管運動中樞ノ侵サル、コト速ク呼吸中樞ノ侵サル、
ハ第二次ナリ、斯ノ如ク循環系ノ撰取的作用ヲ被ムル所以ハ「クロール」ノ含有ニ
職由スルモノニシテ「クロ、フォルム」カ特ニ同系統ヲ侵スト、同一理ニ出ツ、從テ
心臟運動神經節並ニ脈管壁モ亦終ニ麻痺ヲ免ルコト能ハス、是レ即チ抱水「クロ
ラール」急性中毒症ニシテ、其主要徴候ハ昏睡ヲ以テ起リ、次テ脈管擴張ノ爲メ著
明ノ血壓沈降、皮膚蒼白、厥冷ヲ來シ、呼吸ハ不整緩徐、肝息性トナリ、呼吸麻痺稀ニ
心臟麻痺ニ因スル死ヲ以テ終ルベシ

救治法 「クロ、フォルム」麻酔ニ對スルト均シク興奮劑ノ投與、人工呼吸法、及皮膚
刺戟法等ノ施行ヲ要ス

本劑ハ大部分尿「クロラール」酸トシテ殘餘ハ變化スルコトナク共ニ尿中ニ排
泄セララル

備考 往時本劑ハ血液ノ「アルカリ」ニ由テ「クロ、フォルム」ニ變ジ以テ麻痺作用ノ因
チナスモノト説カレタリキ「リイブライロ氏 Liebreich」是レ本劑ニ苛性加里ヲ加ヘテ熱ス
ルトキ起ルトコロノ反應即チ「クロ、フォルム」蟻酸及水ヲ生ズ $C_6H_5O_2H_2O + KHO = CHCl_3$
+ $CH_3OK + H_2O$ ルニ論據セラレタルモノト知ルベキモ元來血液中ノ「アルカリ」其
量極メテ僅少ナルガ故到底變化ヲ抱水「クロラール」ノ上ニ及ボスコト能ハズ況ンヤ
其本劑排泄時ノ狀況ニ見ルモ「クロ、フォルム」ノ存在ヲ認メザルニ於テ「オヤ本劑」ハ脂
肪列屬通性ノ麻酔作用ヲ有スルコト論チ俟ザルガ故未ダ必シモ「クロ、フォルム」ノ力
ヲ藉ルヲ要セザルモノナリ

應用法並其藥理

主治 本劑ハ催眠効驗ノ確實持長ト不快ナル殘貽作用ナキトヲ以テ優レル
モノニシテ又小兒及「モルフィン」ヲ禁スヘキ者ニ安全ナルノ利アリ、只痛楚ヲ鎮ム
ルノ効ナキカ爲メ疼痛ニ由來セル不眠ヘノ應用ハ甚タ價値ナキモノトス、若シ
夫レ齒牙發生期ノ異和ニ因スル不眠症ニ用キンカ著シキ効果ヲ認ムヘク此目

的ニハ一回一〇—二〇小兒ニハ一〇—一五ヲ溶劑若クハ粘滑劑トシテ口授スルヲ通法トス、三又神經痛、齒髓及齒膜ノ炎症等ニ因ル不眠狀態ニ亦前法ヲ用キラル、モ其効極メテ不確ニシテ、寧ロ局處の用法ニ如カサルノ觀アリ

鎮靜的應用、小兒生齒時搖擗症ニ對シ通例〇・二—〇・五ヲ毎二時内服セシメ若シ症狀固執スルトキハ〇・三—〇・六(一歲—三歲ノ幼兒ニ對スル比例ヲ八・〇—一二・〇ノ水ニ溶解シ灌腸法ヲ執ルヘシ)下臼齒々膜炎又ハ生齒期若クハ神經性等ニ由來セル牙間緊急ニ對シテハ主ニ内用法ヲ撰擇セラル

局處的應用、引赤藥トシテ、リョウマチ、性齒痛又ハ三又神經痛ニ對シ濃稠溶液ノ懸法ヲ用キラル—鎮痛藥トシテノ効價ハ單味ナルニキニ於テ甚ク不確ナリ等分量ノ「カムフォア」ト配伍シタルモノ所謂「クロラールカムフォア」Chloral-ampior ハ齒髓炎及三又神經痛ニ大ナル効アルモノトシテ數々撰擇セラル

極量 一回二〇—一日〇六(日本局方藥)

禁忌症 消化器重患、殊ニ胃炎及胃潰瘍等ニハ絶對ニ禁忌スベク、心臟病、殊ニ其脂肪變性肺大患等ニハ大量ヲ禁シ、精神病者ニハ連用ヲ戒ムベシ、其他尙ホ高

老幼兒、高熱病者、貧血家等ニハ周到ノ注意ヲ要ス—用時ハ毎々五%以上ノ稠度ヲ禁シ以テ胃ニ對スル本劑ノ局處刺戟的作用ヲ避ケ、且最初ハ多クトモ一〇ヲ超エヌ又毎ニ持久スベカラス是レ偏ニ中毒ノ發起ヲ豫防スル所以ナリ
配伍禁忌 溫湯、炭酸アルカリ、植物酸アルカリ、「アムモニア」鹽過マンガン酸鹽、「アンチピリン」酒精及同製丁幾劑臭素及沃素鹽等ハ本劑ノ分解ヲ生ゼシム

處方

抱水「クロラール」 〇・〇五—〇・二五 沙列布漿 二五・〇

右調勻鎮靜的灌腸料トシテ小兒生齒時搖擗症ニ用ウ

ズル「フナール」 ニエチール 硫酸ニ
メチールメタン

Sulphonal — Di-ethyl-sulphon-di-methyl-methan, C₇H₁₆O₂S₂

無色稜柱形結晶或ハ結晶性粉末ニシテ臭味ナク攝氏百二十五度—百二十六度ニ於テ熔融ス、五百分ノ水十五分ノ沸湯六十五分ノ冷酒精二分ノ沸騰酒精百

三十五分ノ「エーテル」等ニ溶解シ中性ニ反應ス(日本局方藥—劇藥)

生理的作用

局處的ニハ殆ンド作用ヲ呈セス是レ其難溶性ナルカ爲メニシテ斯性ハ又本劑ノ吸收ヲモ遲徐ナラシム即チ其催眠作用ヲ現ハスニ至ルマデハ用後三十分—二時間ヲ費スベク從テ排泄モ亦緩慢且蓄積ノ傾向アルヲ以テ催眠作用ノ持長ハ通例五時—八時間ニ亘ルモノトス而シテ本狀態ハ藥用量一〇ヨリ三〇ノ間ニ於テ求メラルベク倦怠ノ感ヲ前驅スルノ他睡眠ノ前後ヲ通ジテ不快症狀ヲ伴フコトナシサレト其持長ニ由來セル蓄積若クハ頓服五〇以上ノ大量ナルトキハ神經系統ニ於ケル障得トシテ眩暈、頭痛、耳鳴、運動失調等ヲ呈シ消化器系統ニ於テハ惡心、嘔吐、下痢或ハ便秘、腹痛等ヲ來シ且皮疹ヲ生スルコト數々アリ重症ニ在テハ人事不省、痙攣ヲ起シ最モ重篤ナルトキハ上行性麻痺ニ陥リ死ノ轉歸ヲ取ルコトアリ之ヲ「ズルフォナル」全身中毒ト云フ

本劑ノ作用中特ニ注意スヘキモノハ腎臟ニ對スル刺激是レナリ元來結合鞏固ニシテ分解シ難キ「ズルフォ」叢ノ排泄ノ途ニ赴クヤ其經路タル腎臟ニ聚積シテ

之ヲ刺激シ炎ヲ招キ尿管上皮細胞ヲ壞死セシメ尿量ヲ減シ且強酸性ヲ附與シ蛋白ヲ混シ特ニ「ヘマトポルフィン」Haematoporphyrin 鐵ヲ含マサル血ヲ夾雜セシムルニ至リ爲メニ尿ハ暗赤色ヲ潮ス斯ル現象ハ敢テ中毒ニ伴フノミナラズ通常藥用時ニモ亦ズルコトアリ

救治法

後用ヲ止メ蓄積セルモノヲ排除スル爲メ微溫湯ヲ以テ疎濼瀉腸ヲ行ハ特ニ尿ノ「アルカリ」性ヲ增加シ且利尿ヲ促進スバク一日五〇—一〇〇ノ重碳酸ナトリウムヲ投與スバシ之ヲ「アルカリ」療法 Alkaline-treatment ト云フ

本劑ハ一部蓄積シ殘部ハ恐ラク「エチール」硫酸トナリテ尿中ニ排泄セラレ、ニ似タリ

應用法並其藥理

主治 本劑ノ催眠狀態ハ之ヲ強ヒテセシムルニアラスシテ尋常定期的ノ要求ヲ補足シ或ハ全然缺如ノ際之ヲ喚起スルニ在リ抱水「クロラール」ヨリハ持長シ多少痛神ヲ減衰セシメ且呼吸器系並循環器系ヲ侵サ、ル等ノ長所アリサレド用量ニ對スル不注意ハ數々中毒ニ陥リ易キ短所ヲ有ス之ヲ以テ本劑ハ主ニ

患者健康ノ如何ニ鑑ミ抱水「クローラール」ト比較選擇スヘキモノトス而シテ特ニ中毒ヲ避クル法トシテ一日平均二〇(男性)或ハ一〇(女性)ヲ一回ニ頓服若クハ數回ニ分服セシメ超量ヲ戒ムベク又持長セントスルトキハ時々二三日間其使用ヲ中止スルヲ要ス

神經痛ニ基因スル不眠ニハ特ニ著明ノ効果アリ又精神衝動ヲ惹起シ易キ稟賦ノ者即チ神經質者ニシテ金充填ノ如キ長時間ノ施術ヲ經タル後ニモ亦奏効ス此等ノ目的ニ對シテハ就床約一時間前〇・五—一・五ヲ散劑或ハ藥劑トシテ可成多量ノ温湯ヲ以テ頓服セシメ又ハ牛乳ノ如キ飲料ヲ温メテ共ニ用キシムルヲ良シトス

鎮痙の應用 初生兒ノ牙關緊急或ハ乳齒發生期ノ抽搐ニ對シ〇・二ヲ稀釋シテ灌腸ニ用キラル

極量 一回二〇—一日六〇(日本局方藥)

第三節 鎮痙劑

鎮痙劑 Antispasmodics トハ筋肉系統ニ現ハル、不規律ノ收縮所謂痙攣 Spasmsヲ鎮撫スルトコロノ藥劑ノ謂ナリ

硝酸アミール 異性亞硝酸アミールエーテル

Amyl nitrite—Iso-amyl ether-nitris, C₅H₁₁NO₂

澄明類黄色揮發性ノ液ニシテ特異香氣腐敗セル林檎ニ似タルト芳香性灼味トヲ有シ比重〇・八七—〇・八八攝氏九十七度—九十九度ニ沸騰ス水ニハ殆ト溶解セザルモ酒精及「エーテル」ニハ任意ノ比例ヲ以テ混和ス點火スルハ光輝アル黄色火焰ト煤煙トヲ放テ燃燒スベシ(日本局方藥—劇藥)本劑ノ反應ハ中性又ハ弱酸性ナルモ大氣日光ノ觸接ニ依テ分解シ亞硝酸ヲ生成スルカ故酸性ニ變化ス

生理的作用

局處的作用

本劑ノ揮散性ハ體表血温ノ幫助ニ由リテ一層增強セララルガ爲メ恰モ「クロホルム」ニ見ルカ如キ局處刺戟作用ヲ呈スベシ

吸收的作用

本劑ハ固來脂肪體列通有ノ麻醉性アル「アミール」ニ亞硝酸ノ麻醉性能ヲ附加セラレタルモノナルカ故其作用殊ニ著シク二滴—五滴ノ吸入ハ既ニ脈管運動中樞ノ麻痺ヲ以テ脈管ヲ甚シク擴張セシメ爲メニ血行旺盛顔面潮紅高度溫熱等ヲ招來ス而シテ此症狀ハ始メ常ニ顔面及腦表面ニ局限スルモノニシテ數々頭重眩暈ヲ伴フコトアリ這際尙一面ニ於テハ迷走神經中ニ存スル心臟制止纖維ノ中樞性麻痺ニ由テ脈搏充進血壓昇騰ヲ生シ且動脈ニ搏動ヲ感スルニ至ル、更ニ増量スルトキハ脈管運動中樞殘部ノ麻痺ト平滑筋纖維上ニ及ホス麻痺トヲ以テ顔面及腦表以外ノ身體各部動脈ノ擴張弛緩ヲ繼發セシメ依テ漸次血壓ノ沈降ヲ招致ス大量ハ體內ニ於テ亞硝酸ヲ游離スルコト多キ爲メ血液中ノ「ヘモグロビン」ヲ「メトヘモグロビン」ニ變化シテ酸素供給ノ介達力ヲ奪ヒ血液ヲシテ靜脈性タラシメ以テ「ヒキ」ノ血壓沈降ト相俟テ組織ノ窒息ヲ來シ死因ヲ醸スコトアリ

之ヲ要スルニ本劑ハ大腦及心臟ニ對シテ直達作用ヲ有スルモノニアラス彼

ノ心臟ニ現ハル、症狀ハ專ラ迷走中樞ノ沈衰ニ由來スルモノトス

應用法並其藥理

主治 「ゴカイン」中毒或ハ拔齒ニ續發セル腦貧血ノ如キ凡テ脈管ノ攣縮ニ由來スルモノニ對シ一回一滴—三滴ヲ「ハンカチーフ」ニ滴下シテ吸入セシムルトキハ其脈管擴張作用ニ基キ偉効アリ「クロ、フォルム」中毒時ノ虛脱ニ對シテ直接心臟ヲ充奮セシムルニ出ツルコト能ハサルモ動脈ヲ擴張セシメ延テ心動ヲ回復セシムルヲ得ルカ爲メ前方ヲ用キラル

本劑ハ數々酒精ト伍シテ皮下注射ニ用キラル、モ更ニ迅速的確ナル吸入法アルヲ以テ敢テ之ヲ要セズ而シテ吸入ニ際シテハ往々虛脱ヲ來ス恐アルカ故假令體力強壯ノ者ニ對スル時ト雖初メハ一滴以上ヲ用ウヘカラス

禁忌症 動脈瘤「アテロマ」變性心臟病

ブロームカリウム

臭素化加里

Bromide of potassium, KBr

光輝アル白色微子形結晶ニシテ臭氣ナク辛鹹味ヲ有シ氣中ニ變化セズ二分ノ水及約二百分ノ酒精ニ溶解シ該溶液ハ中性ニ反應ス〔日本局方藥〕

生理的作用

本劑ノ作用ハ其解離ニ依リ産スル臭素イオーン、Brom-Ionen, Br⁻ トカリウムイオーン、Potash-Ionen, K⁺ トニ基クモノナリ

局處的作用

粘膜及皮下組織ヲ刺戟發炎セシメ腫テ多少其知覺ヲ鈍麻セシムルノ他健全ナル皮膚ニ作用セス從テ之ヲ内用スルヤ殊ニ濃稠ナルトキニ在テ灼熱嘔吐下痢等ノ胃腸炎性症狀ヲ來ス尙此内用ノ初期ニ方リ口腔粘膜刺戟ノ爲メ唾液分泌ノ反射増進ヲ起スモ漸次減退シテ末期ニハ却テ渴ヲ呈スルニ至ル

速ニ粘膜及皮下組織ヨリ吸收セラレ主トシテ神經中樞特ニ大腦外層及運動部域呼吸部域、反射部域等ヲ侵シ逐次末梢ニ移行ス

一〇〇—二〇〇内用後ニ來ル吸收作用ハ敢テ著シキモノニアラザルモ五〇—

〇〇ハ大腦ノ亢奮性ヲ著シク沈衰セシメ精神弛緩ヲ喚起シテ記憶力、思考力ノ減退、倦怠、疲勞、言語滯澀等ヲ生セシメ輕キ睡眠ヲ與フ這際口蓋粘膜舌根會厭等ノ反射知覺ハ通例鈍麻シ之ニ觸ル、モ絞扼若クハ咳嗽ヲ以テ反應スルコトナシ

一〇〇—二〇〇ノ頓服若クハ藥用量ノ數月間持久ハ所謂臭素病 Bromismus

ヲ發スヘシ前般ノ際ニ來ルハ急性ニ經過スヘキ中毒ニシテ消化器系ニ於ケル強大ノ局處刺戟局處作用論參照ト前叙腦機能障礙ノ更ニ増進セルモノトヲ以テ現象シ且呼吸減衰、心機衰弱、脈搏少數、不整トナリ血壓下降、運動失調、體表知覺反射ノ喪失等ヲ來シ終ニ昏睡ニ陥リ二〇〇以上ナルトキハ稀ニ死ニ轉歸スルコトアリ是レ概ネ心臟ノ麻痺ニ基因ス前是急性中毒ノ經過間ニ於ケル心機及脈搏ノ變常ハ全ク心臟神經節及心筋質ノ沈衰ニ由ルモノニシテ心動制止神經中樞ノ亢奮ニ出ツルモノニアラズ後般ノ中毒ハ慢性ニ來ルモノニシテ比較的低下ノ前述諸症狀ヲ以テスルノ他特ニ胃腸症ニ胚胎セル營養不衰、貧血、瘦削ト體表ニ排泄シタル臭素ノ刺戟ニ由ル臭素粉刺 Brom-acne ヲ首メ疫咳様ノ

第一章 鎮靜劑—鎮痙劑

咳嗽發作ヲ有スル氣管支炎鼻炎結膜炎等トヲ呈シ在苜放置スルトキハ衰憊ノ爲メ斃ルモノトス

救治法 下劑利尿劑ヲ投シ若シ胃内ノ存在ヲ疑ハレバ胃洗滌法ヲ以テ之ヲ排除シ充奮料トシテ濃厚ナル「カファイ」内服知覺未梢刺戟トシテ冷水澆灌若クハ冷水浴ヲ取ラシムベク慢性症ニ對シテハ後用ヲ廢止シ強壯藥充奮劑等ヲ投與スベシ

本劑ハ吸收後血液及組織内ニ於テ臭素ヲ遊離シ「アルカリ」ノ状態ヲ以テ主ニ尿及唾液ニ混シ尙僅少部ハ乳汁涙液汗汁ト共ニ排泄セラル而シテ此排泄ハ甚ク迅速ニシテ用後既ニ十五分内ニ始リ往々二三週日ニ持長スルコトアリ

應用法並其藥理

主治 咀嚼筋ノ強直性痙攣牙關緊急及間代性痙攣(圓牙)並内外翼狀筋痙攣(軛齒)等ニ對シ一日二三回〇・五—二・〇宛ヲ水劑又ハ散劑トシテ内服セシメ内用法不可能ナルキハ一回量一・〇—五・〇ヲ約五%護膜漿ニ作リテ灌腸ニ供ス小兒生齒期搖擗ニハ一日二三回〇・二以下宛ヲ(哺乳兒)或ハ〇・二—〇・四宛ヲ(二三歲)乳汁ニ和シテ投與シ若クハ此比例ニ據リ灌腸法ヲ施スヘシ癲癇患者ノ施術ニ先チ

二〇—三〇ヲ頓服セシムルトキハ其發作ヲ豫制スルヲ得
催眠的應用 乳兒生齒期ノ精神衝動性不眠ニ對シ生齒搖擗ニ用ウルノ量ヲ參酌シテ内服セシムベシ

禁忌症 心臟病—尙投藥中ハ酒類脂肪食果實酸性物質ノ攝取ヲ禁ス

局處的應用 其局處麻痺作用ヲ以テ口腔印象採得時粘膜ノ知覺過敏ヲ止ムル爲メ約十%水溶液ヲ塗敷シ人工口蓋板又ハ義齒裝置ノ始メニ方リ慣了スルマテ該部ノ感受性ヲ鈍麻セシムル爲メ四%水溶液ノ口洗法ヲ推薦セラル

配伍禁忌 礦物酸「クロール」水、水銀鹽、銀鹽、酒精

處方

臭素加里 二〇—五〇 「アミン」油 一〇〇〇

右調勻鎮痙劑灌腸料トス

臭素加里 一〇〇〇 「アンチピリン」 三〇〇 「グリセリン」 一〇〇〇

椒樣薄荷水 六〇〇

右調勻小兒生齒期搖擗症ニ對シ每時半—一茶匙宛投與「ロング氏 Long」

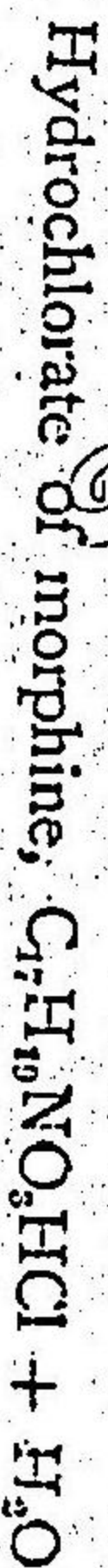
臭素加里 二〇〇 單舍 一五〇〇 「シンナモン」水 一〇〇〇

右調勻生齒期不眠ニ對シ每時一茶匙宛投與(ロンツ氏 Long)

第四節 鎮痛劑

鎮痛劑 Antodynes トハ知覺神經中樞ノ感受力ヲ抑制シ殊ニ其異常ニ亢進セル機能即チ疼痛ヲ鎮撫スル作用アルトコロノ藥物ノ謂ナリ

鹽酸モルフィン



絹絲様光澤アル白色ノ鍼狀結晶ニシテ多クハ束狀ニ集團シ或ハ白色骰子形ノ塊片ヲナス無臭苦味氣中ニ於テ變化スルコトナシ二十五分ノ水及五十分ノ酒精ニ溶解シ中性ニ反應ス而シテ「エーテル」ニハ溶解セズ(日本局方藥—毒藥「モルフィン」 $C_{17}H_{19}NO_3 + H_2O$ 阿片ノ主要成分タルアルカロイド「Alkaloid」ニシテ「アルカロイド」中最初ノ發見ニ係ルモノナリ而シテ其鹽類ニハ尙ホ醋酸及硫酸アルモ醋酸鹽ハ分解シ易ク硫酸鹽ハ比較的難溶性ニシテ且刺激作用ヲ有スルガ爲メ現今多

ク用キラレズ
阿片 Opium 未熟罌粟殼ノ乳液ヲ乾涸セルモノニシテ通常扁圓形或ハ殆ンド球圓形ヲ呈スル柔軟ノ塊ヲナシ之ヲ乾燥スルトキハ硬脆トナル内部褐色ニシテ破砕面ハ稍々光澤ヲ帶ビ麻醉性臭氣ト苛烈苦味トヲ藏ス之ヲ細割シ攝氏六十度以下ニ於テ乾燥シ粉末トナシタルモノヲ藥用ニ供ス本粉末ハ其百容中水ニ溶解セサル部分四十容ヲ過キス(日本局方藥—劇藥)

生理的作用

局處的ニハ殆ント作用ナク粘膜並ニ皮下組織ヨリ吸收セラレテ大脳機能殊ニ感覺ヲ麻痺シ爲メニ麻醉ヲ招致ス隨意運動反射運動モ亦同シク麻痺セラレ、モ獨リ脊髄反射ノ亢奮性ノミハ却テ増進ス是レ特異作用ナリ
一回〇〇〇五—〇〇一ヲ用ウルトキハ最初強キ知覺刺激ニ對スル感受性ヲ鈍麻シテ痛覺及咳嗽ノ減退若クハ全キ喪失ヲ來スモ觸覺ハ通例變スルコトナク又既ニ鎮痛作用ヲ起スヘキ程度ニ進ムモ一般感覺ハ尙依然トシテ保存シ從テ睡眠ヲ醸スニ至ラス却テ數々精神發揚シテ酩酊狀態ヲ呈スルコトアリ脈搏

Handwritten note or signature at the bottom of the page.

ハ迷走中樞制止枝ノ機能減退又ハ心臟運動神經節ノ亢奮ニ依テ呼吸ト共ニ僅ニ増加シ。温暖、顔面潮紅、發汗、皮膚瘙癢、輕度頭痛等ハ全體表殊ニ顔面及腦表脈管ヲ主宰セル神經中樞ノ機能減衰ニ依テ該部脈管ノ擴張セラレ、カ爲メニ現出シ且ツ分泌神經裝置ノ鈍麻ニ依テ口腔及咽頭ノ渴ヲ生ス然レモ爾後此等ノ部域ハ漸次衰退ニ陥リ外來刺激ニ對スル感受力ノ遲鈍トナルニ近ビテ睡眠ハ自ラ至リ精神愉快トシテ華荷ニ道フカ如ク脈搏呼吸又安靜ニ歸ス前是亢奮狀態ノ現發シタリシハ真正ノ亢奮作用ニアラスシテ腦諸機能ノ平衡ヲ失スルノ結果ニ關與シ、寧ろ麻醉初期ノ表徵ナリトス。而シテ本作用ノ尙進ミタルトキ即チ〇・〇一—〇・〇三ヲ用キタル際ニハ速ニ全ク睡眠ニ入り安靜ニ放置セハ永ク之ヲ繼續スルヲ得サレト睡眠ノ前後ニ於テ強キ刺激ニ會スルヤ之ヲ妨ケラレ或ハ覺醒セラルベシ但シ僅カニ〇・〇三ヲ超ユルトキハ大腦機能ノ全キ消失ニ依リ覺醒セサル睡眠ヲ來スヘシ

〇・〇六以上ナルトキハ夙ニ昏睡意識及隨意運動ノ麻痺ニ陥リ知覺反射モ亦全ク喪失シ脈搏ハ心臟運動神經節ノ減衰ニ依リ失調遲細シテ殆ント觸知セラ

レザルニ至リ血壓ハ脈管運動中樞ノ減衰ニ由リ全身脈管ノ擴張弛緩セルカ爲シ且降シ體溫ノ下降モ亦著シク皮膚厥冷々汗ヲ以テ掩ハレ顔面ハ藍色ヲ呈シテ且陥沒シ眼ニ在テハ延髓ニ存スル瞳孔散大中樞ノ麻痺ニ依テ帽針頭大ニ至ルマテ縮瞳ヲ呈シ尙眼調節筋ノ痙攣ヲ來シ眼險ハ全ク或ハ半ハ閉鎖シ呼吸ハ呼吸中樞亢奮性ノ衰退ニ基キテ其數ヲ減シ不整歇滯ヲ起シ鼾聲ヲ發シ且嘆息ヲ以テ繼續シ其他糞尿ノ閉止ヲ來ス是レ恐クハ脊髓ニ存スル排尿中樞ノ麻痺ト腸蠕動中樞恐クハ之レアルベク思考セラルノ麻痺トニ原因スルモノナルベシ而シテ以上症狀ハ多クノ場合ニ於テ漸次増進シ衰憊ヲ加ヘ終ニ藍色症ノ増劇ト瞳孔散大トヲ來シ自動神經節ノ麻痺ニ由ル心臟麻痺但シ甚タ多カラス及呼吸中樞麻痺ノ爲メ呼吸麻痺シテ鼾ル就中呼吸麻痺ハ「モルフィン」中毒死ノ原因ヲナスコト常ニ多シ而シテ時ニ呼吸麻痺ニ先チ脊髓反射亢奮性ノ増進ヲ以テ強直ヲ發スルコトアリ之ヲ急性「モルフィン」中毒 Acute-morphinismus ト云フ

救治法 先ツ胃内内容部分ヲ排出スル爲メ人爲的催吐法或ハ吐劑(但シ重症ニ對シテハ却テ虛脱ヲ來サシムル恐アリ)胃唧筒等ヲ用キ次テ解毒的洗滌法トシテ鞏固又

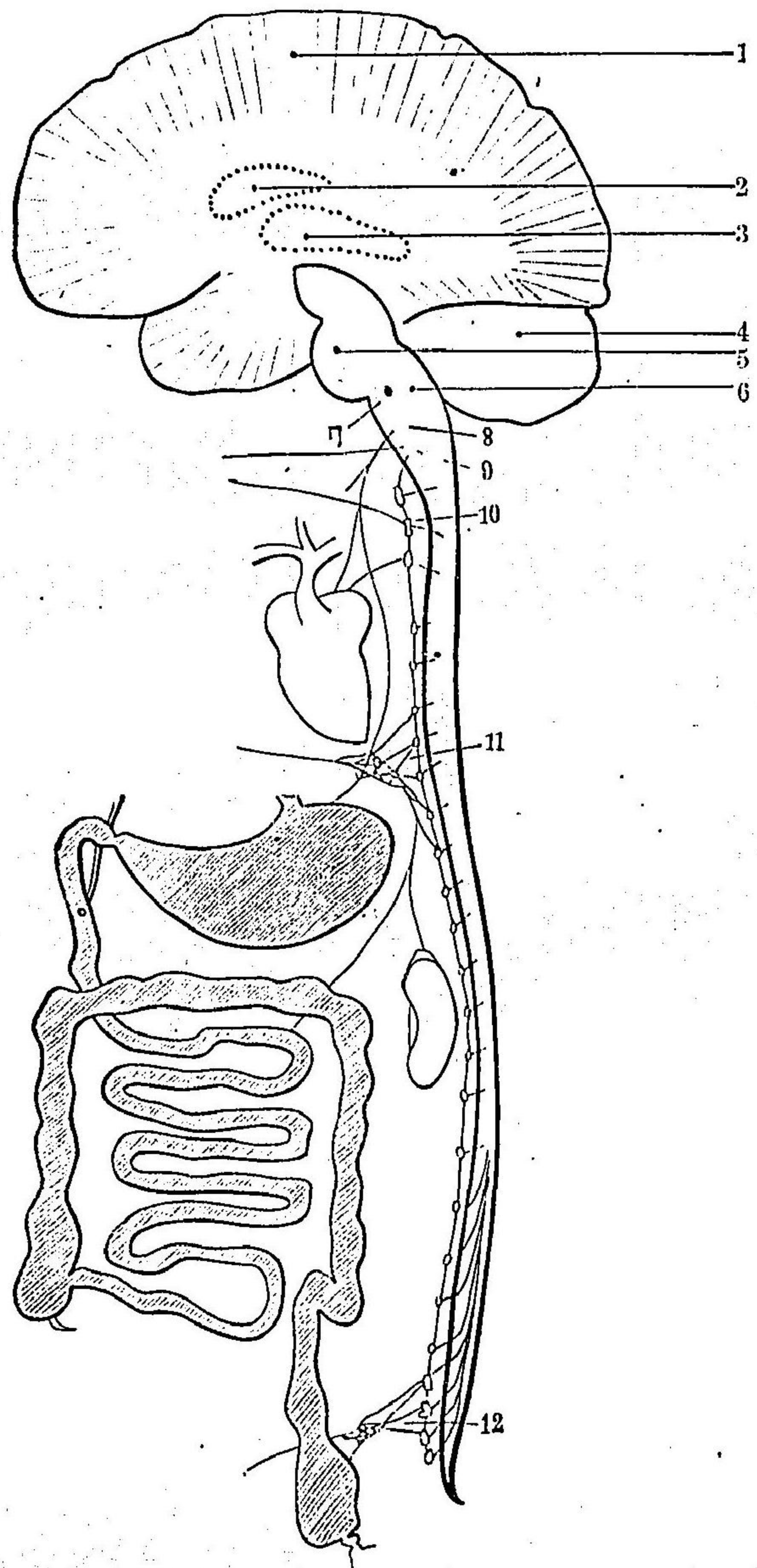
第一章 鎮靜劑—鎮痛劑

ハ含酸質溶液ヲ灌注シ若クハ過「マンガン酸」「カリネーム」水ヲ用ウベシ「過マンガン酸」
 酸加里論参照吸收セラレタル部分ノ解毒薬トシテ「アトロピン」0.001—0.005
 ○〇五ノ皮下注射ヲ可トス對症療法トシテハ昏睡ヲ妨止スル爲メ不斷喚呼吸搖ヲ
 與ヘ既ニ之ニ陥リタルトキハ興奮法トシテ「茶」「酒精」「エーテル」ト「カムフォア」等
 ノ口授及皮下注射ヲ施シ或ハ皮膚刺戟冷水灌漑ヲ行ヒ呼吸麻痺ノ傾向アラバ人工
 呼吸法、横膈膜ヘノ感傳電氣刺戟、酸素又ハ亞硝酸「アミール」ノ吸入等ヲ要ス
 急性「モルフィン」中毒ノ發起ハ服用後或ハ早クシテ數分時内ニ來リ或ハ遅クシ
 テ數時間ヲ費シ其死モ亦三十分—四十分ヨリ六時間—三十時間ニ亘ル差アリ
 而シテ適々恢復スヘキトコロノモノハ呼吸心動漸々常態ニ向ヒ昏睡ハ長時間

第二十八圖 解説 青色ハ麻痺ヲ表示ス

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 1 大 腦 | 2 基底部 | 3 神 經 節 |
| 4 小 腦 | 5 ヲロル氏橋 | 6 延 髓 |
| 7 呼吸中樞 | 8 迷走中樞 | 9 脈管中樞 |
| 10 交感神經頭 | 11 太陽叢 | 12 尿管盤叢 |

第二十八圖



(通例三十時間)ニ亘ル安眠ニ移リ覺醒後頭痛眩暈惡心嘔吐食慾缺乏便秘等ヲ殘
 賸スコト多シ

「モルフィン」ヲ持久スルトキハ終ニ慣了シテ慢性中毒ニ陥リ初メハ通例身體愉
 安ヲ感スルニ止マルモ數月罕ニ年餘ニ近ビ口渴惡心嘔吐知覺性胃神經ノ亢奮
 便秘後ニハ下痢内臟ニ於ケル蠕動制止神經ノ亢奮ニ由レル蠕動ノ減少ト同神
 經麻痺ニ由ル蠕動増進高度ノ羸瘦皮膚弛緩顔面蒼白發汗增多利尿困難利尿筋
 ノ麻痺體力及精神力減衰眩暈頭痛四肢及舌振顫神經痛不眠等ヲ發シ終ニハ痴
 呆トナリ麻痺ヲ起スニ至ル斯ル者ハ能ク一〇—四〇ノ多量ニ堪ヘ却テ後用ヲ
 廢止スレハ所謂禁避現象トシテ數時間ノ後惡寒欠伸頭痛劇シキ神經痛下痢嘔
 吐不眠等ヲ發シ殊ニ不眠ノ如キハ數日間繼續スヘシ劇烈ナル禁避現象ニ至テ
 ハ躁狂狀ヲ呈シ次テ幻覺ヲ起シ震顫ヲ發シ全ク精神病ニ陥リ時ニ本症中最モ
 恐ルヘキ虛脱ヲ招キテ死ノ轉歸ヲ取ルコトアリ

救治法

漸次其量ヲ節シ對症療法ヲ施スベシ

吸收セラレタル「モルフィン」ハ唯其少部分ノミ變化スルコトナク一部ハ變化シ

テ共ニ尿中ニ出テ過半ハ腸胃粘膜炎ヲ經テ糞便中ニ移行シ以テ排泄セララル
阿片ノ作用

其主要成分タル「モルフィン」ノ作用ニ畧々同一ナルモ膠樣物質ヲ含有スル爲
メ其吸收緩徐ニシテ効力温和且持長スルノ差アリサレト其中毒量ハ同量ノ
「モルフィン」ヨリ脊髓ノ反射機ヲ亢進セシメ強直ヲ起サシムルコト強大ナリ蓋
シ「コデイン」屬ノ如キ反射機亢進作用強キ副アルカロイドヲ夾雜スルカ故ナ
ルベシ

應用法並其藥理

主治 疼痛ヲ中樞的ニ鎮靜スヘキ齒科藥物トシテハ「モルフィン」鹽ニ優ルモノ
ナク且催眠的効驗ノ附加ヲ以テ患者ノ痛苦ト疲勞ヲ救フノ利アリ故ニ齒根膜
炎ニシテ殊ニ化膿期ニ瀕セル者ヲ首メ三又神經痛、齒髓炎等ニ對シ鎮痛的催眠
藥トシテ〇・〇〇三—〇・〇〇一ヲ粉劑錠劑溶劑ニ調勻シテ頓服セシメ或ハ同量ヲ
灌腸シ或ハ一％水溶液ノ半筒—一筒ヲ皮下ニ注射ス此他「クロ、フォルム」麻醉ヨリハ疼痛ノ
際シ皮下注射ヲ以テ所謂連合麻醉ヲ施シ單純「クロ、フォルム」麻醉ヨリハ疼痛ノ

麻痺ヲ著明ナラシムルニ供ス「クロ、フォルム」論參照

阿片ノ主治 不眠ヲ伴フ齒痛及神經痛ニ對シ鎮痛的催眠藥トシテ就床前
〇・〇五—〇・一ヲ粉劑ニテ頓服セシム

鎮痙の應用 生齒期搖擗ニ對シ一回量〇・〇〇一—〇・〇〇三ヲ丸劑又ハ粉
劑トシテ一日二三回内服セシメ或ハ同量ヲ灌腸スヘシ

止瀉的應用 生齒異和ニ來ル反射的下痢ニ對シ前量ノ内用或ハ灌腸ヲ推
薦ス

極量 鹽酸「モルフィン」 一回〇・〇三—一日〇・一
阿片末 一回〇・二五—一日〇・五

禁忌症 腦充血、心臟瓣膜病、高熱病、及小兒、高老、衰弱者以上「モルフィン」禁忌阿片
ハ小兒高老者ニ用キラル、コトアルモ特ニ其用量用法ヲ慎マサルヘカラズ

局處的應用 阿片丁幾ハ鎮痛藥トシテ棉花ニ浸シ齒髓炎ニ用キラル、或ハ口腔粘
膜ノ瘡衝ニ塗布セララル

配伍禁忌 炭酸アルカリ、鞣酸及其含有物、沃度、金屬鹽類、

製劑

鹽酸「モルフィン」錠 Tablets of Hydrochloric morphine

鹽酸「モルフィン」五分乳糖九百九十五分ヨリ成リ一錠中〇・〇〇五ノ主藥ヲ含ム
〔日本局方藥—毒藥〕

阿片丁幾 Tincture of opium

阿片末一分稀酒精五分蒸餾水五分ヨリ成ル赤褐色ノ液ニシテ味苦ク〇・九七
四—〇・九七八ノ比重ヲ有ス本劑百容中十容ノ阿片可溶成分ヲ含ム〔日本局方藥
—劇藥—極量一回一・五—一日五・〇〕

處方

鹽酸「モルフィン」 〇・〇〇七 「ズルフォナル」 〇・七

右調勻鎮痛催眠料トシテ臨床前頓服

阿片末 〇・〇三 白糖 〇・五

右調勻止瀉料トシテ四分シ毎夕一包宛服用

硫酸アトロピン

Sulphate of Atropine, $(C_{17}H_{21}NO_3)_2 \cdot H_2SO_4$

白色結晶性ノ粉末ニシテ無臭苦味攝氏百八十度ニ於テ熔融シ等量ノ水并三分ノ酒精ニ溶解シ無色中性ノ液トナリ「エーテル」及「クロ、フォルム」ニハ殆ント溶解セス〔日本局方藥—毒藥〕

「アトロピン」 $C_{17}H_{21}NO_3$ ハ莨菪草中ノ主要成分タル「アルカロイド」ニシテ尙ホ鹽酸鹽

「ザリチル」酸鹽等アルモ多ク用キラレス

莨菪根 Roots of Scopolia 外面帶灰褐色ニシテ著明ノ皺縮ヲ帶ベル根莖ナリ其破折面ハ顆粒狀ニシテ横断面ハ類白色又ハ灰褐色ヲ呈シ不快ノ臭氣ト微ニ苦ク且少シク苛辣ナル味トヲ有ス〔日本局方藥—劇藥〕

生理的作用

局處的作用

健全ナル皮膚ニハ作用ヲ致サルモ其剝離面或ハ潰瘍面并粘膜面ニ對シ微カナル知覺麻痺ヲ與ヘ特ニ眼ニ於ケル作用ハ特殊ノモノニシテ瞳孔ヲ散大シ

第一章 鎮靜劑—鎮痛劑

救治法 先ツ排除ニ努メ化學的解毒法トシテハ、糖酸性又ハ沃度性水液ノ洗滌ヲ施シ生理的拮抗性解毒法トシテハ阿片、モルフィン、ヒロカルピン等ノ皮下注射ヲ要ス尙對症法トシテ濃厚茶、「カフィー」、酒精等亢奮性飲料ヲ撰ミ頭部冷却、人工呼吸法モ時ニ缺クヘカラス

本劑ノ排泄ハ尿ヨリセラ、モノニシテ甚タ早く用後十時—二十時ニシテ全部排泄セラル

應用法並其藥理

主治 硫酸アトロピン 〇・〇〇〇二—〇・〇〇〇五ハ粉劑トシテ齒髓炎、齒膜炎、疼痛ヲ驅除ス爲メ内用ニ供セラル、コトアリ

黃若越幾斯ハ三又神經痛ニ對シ一日三回〇・〇一—〇・〇三宛ヲ丸劑粉劑或ハ溶劑トシテ内用ニ供セラル

分泌制限的應用 唾液分泌多量ニシテ手術ヲ妨グル憂アルトキ例之ハ下顎齒金充填時ノ如キニ際シ施術前約四十五分頃硫酸アトロピン百二十分ノ「グレイン」(〇・〇〇〇五)ヲ内服センメ或ハ六百分ノ「グレイン」(〇・〇〇〇一)ニ「グレイン」(〇・〇〇〇二)ヲ内服センメ或ハ六百分ノ「グレイン」(〇・〇〇〇一)ニ「グレイン」(〇・〇〇〇二)ヲ内服センメ

〇一—〇・〇〇〇五)ヲ皮下ニ注射セラレ又「エーテル」麻醉ヲ施スニ方リ氣管粘液ノ分泌ヲ制止スル爲メ約一時間前〇・二%水液半筒(〇・〇〇〇二)ヲ注射セラル但シ此等用法ヲ要スル場合ニ於ケル分泌ノ状態ニシテ細胞自己ノ刺戟ニ由ルモノナルトキハ更ニ無効ニ終ルヘシ何トナレハ本劑効驗ノ理ハ分泌神經ノ麻痺ニ出ヅルモノナルヲ以テナリ

極量 硫酸アトロピン 一回〇・〇〇一—一日〇・〇〇三

黃若根 一回〇・二—一日〇・三

禁忌症 心臟、呼吸器及胃腑ニ於ケル重患

局處的應用 硫酸アトロピンハ神經痛ニ對シ皮下注射(〇・二%水溶液五分ノ一—二分ノ一筒)又ハ軟膏貼布(主藥〇・〇六家猪脂四〇)ヲ用キラル—生藥ハ神經痛、急性齒膜炎ニ對シ巴布トシテ—越幾斯ハ軟膏又ハ擦劑トシテ—丁幾ハ塗布劑トシテ何レモ用キラルベシ

配伍禁忌 鞣酸屬沃度屬炭酸加里、重碳酸曹達阿片、甘草液等ヲ配スヘカラズ又硫酸アトロピン水溶液ハ分解シ易キヲ以テ貯藏セサルヲ可トス

角膜結膜ノ知覺ヲ奪フコト即チ是レナリ本作用ハ瞳孔ニ分佈セル動眼神經ノ虹彩括約筋枝末梢ノ麻痺ニ歸着スヘキモノトス
吸收的作用

本劑ハ粘膜炎下結締織并潰瘍面等ヨリ吸收セラレ其循行ノ經路ニ於テ一面ハ神經中樞ヲ初メ衝動シ後チ麻痺シ一面ハ末梢的ニ專ラ麻痺作用ヲ提起スルモノナリ

例之ハ〇〇〇〇五—〇〇〇〇一ハ鼓索神經ノ分泌枝ヲ麻痺セシメテ唾液分泌ヲ制止シ爲メニ口腔乾燥或ハ數々渴ヲ來シ〇〇〇〇二ハ點眼ノ場合ト均シク動眼神經ノ虹彩括約筋枝ノ麻痺ヲ以テ瞳孔ヲ散大セシメ且迷走神經ノ心臟制止枝ヲ減衰セシメテ脈搏増加血壓昇騰ヲ招キ迷走神經肺枝ノ減衰ヲ以テ呼吸ヲ緩徐ニシ〇〇〇〇三—〇〇〇〇五ハ分泌制止ノ爲メニセラル、高度ノ渴及此渴ト食道ニ於ケル滑平筋ニ分佈セル末梢神經ノ麻痺トニ由テ嚥下困難ヲ生シ且ツ嘶嘎 Hoarseness 甚シキハ無聲ヲ起シ汗腺機能ノ遏止ヲ以テ皮膚乾燥ヲ來シ尙此乾燥ト血壓昇騰トニ基キテ灼熱ヲ與フルカ如ク這際ニ近ンテハ一面腦中樞

ノ亢奮ヲ以テ頭痛倦怠運動失調精神不安ヲ起サシムヘシ更ニ增量シテ〇〇〇〇七ニ至レハ散瞳倍々甚シク同時ニ動眼神經ノ毛様枝麻痺セラレテ調節機沈退シ爲ニ視覺障礙即チ遠視ニ陥リ〇〇〇〇八—〇〇〇〇一ハ酪酐狀態ヲ喚起シ歩行困難ヲ來シ全身滑平筋麻痺是レ滑平筋自己ノ麻痺ニアラスシテ該筋ニ於ケル神經末梢ノ麻痺ノ結果ナリノ部分現象トシテ膀胱及輸尿管麻痺スルカ故利尿困難トナリ且知覺神經末梢ノ麻痺完成スルカ爲メ全皮膚ノ知覺脫失シ終ニハ意識殆ント全ク喪失シ痴呆トナリ錯覺譫妄ヲ起スニ至リ〇〇一ナルトキハ全身各系統ノ麻痺下ニ墜ルベシ

〇〇五以上ハ所謂急性「アトロピン」中毒 Acute Atropinismus ヲ來ス其主要徵候ハ唾液分泌ノ廢絶嚥下困難若クハ不能嘶嘎或ハ枯歇呼吸促進中樞的「氣息様」トナリ全身振顫及痙攣殊ニ顔面ニ於テハ軋齒并ニ牙關緊急ヲ呈ス次テ知覺喪失四肢運動麻痺人事不省ニ陥リ終ニ自動神經節及心筋ノ麻痺ヲ以テ心臟麻痺シテ致命ス萬一ヲ僥倖シテ甦ルコトヲ得タルトキハ通常爾後數時乃至數日ニ亘ル口渴頭痛散瞳等ヲ殘始ス但シ小兒ニ在テハ數々痴呆ニ歸スルコトアリ

Handwritten notes in the left margin, including the characters 'F/G' and '12'.

第二章 鎮靜劑—鎮痛劑

救治法 先ツ排除ニ努メ化學的解毒法トシテハ、碳酸性又ハ沃度性水液ノ洗滌ヲ施シ生理的拮抗性解毒法トシテハ阿片「モルフィン」、「ヒロカルピン」等ノ皮下注射ヲ要ス尙對症法トシテ濃厚茶、「カフェイン」、酒精等亢奮性飲料ヲ撰ミ頭部冷却、人工呼吸法モ時ニ缺クヘカラス

本劑ノ排泄ハ尿ヨリセラ、モノニシテ甚タ早ク用後十時—二十時ニシテ全部排泄セラ

應用法並其藥理

主治 硫酸アトロピン $0.0002-0.0005$ ハ粉劑トシテ齒髓炎、齒膜炎、疼痛ヲ驅除ス爲メ内用ニ供セラル、コトアリ
莫若越幾斯ハ三叉神經痛ニ對シ一日三回 $0.001-0.003$ 宛ヲ丸劑、粉劑或ハ溶劑トシテ内用ニ供セラル

分泌制限的應用 唾液分泌多量ニシテ手術ヲ妨グル憂アルトキ例之ハ下顎齒金充填時ノ如キニ際シ施術前約四十五分頃硫酸アトロピン 0.0002 分ノ「グレイン」 0.0005 ヲ内服セシメ或ハ六百分ノ「百二十分」ノ「グレイン」 0.0002

0.0005 ヲ皮下ニ注射セラレ又「エーテル」麻醉ヲ施スニ方リ氣管粘液ノ分泌ヲ制止スル爲メ約一時間前 0.1% 水液半筒 0.0002 ヲ注射セラル但シ此等用法ヲ要スル場合ニ於ケル分泌ノ状態ニシテ細胞自己ノ刺戟ニ由ルモノナルトキハ更ニ無効ニ終ルヘシ何トナレハ本劑効驗ノ理ハ分泌神經ノ麻痺ニ出ヅルモノナルヲ以テナリ

極量 硫酸アトロピン 一回 $0.001-0.003$

莫若根 一回 $0.2-1.0$

禁忌症 心臟呼吸器及胃腸ニ於ケル重患

局處的應用 硫酸アトロピンハ神經痛ニ對シ皮下注射 0.1% 水溶液五分ノ一二分ノ一筒又ハ軟膏貼布(主藥 0.06 家猪脂 4.0)ヲ用キラル—生藥ハ神經痛、急性齒膜炎ニ對シ巴布トシテ—越幾斯ハ軟膏又ハ擦劑トシテ—丁幾ハ塗布劑トシテ何レモ用キラルベシ

配伍禁忌 鞣酸、沃度、炭酸加里、重碳酸、曹達、阿片、甘草液等ヲ配スヘカラス
又硫酸アトロピン水溶液ハ分解シ易キヲ以テ貯藏セサルヲ可トス

第一章 鎮靜劑—鎮痛劑

製劑

莨菪越幾斯 Extract of scopolia

莨菪根粗末一分稀酒精及常水各二分ヲ混シ三日間冷浸シ壓漉シ其殘渣ニ稀酒精一分常水一分ヲ加ヘ二日間冷浸ノ後壓漉シ其漉液ト前キノ漉液トヲ混シ濾過シ蒸發シテ稠厚越幾斯トナセルモノニシテ褐色ヲ呈シ水ニ微カ溷濁シテ溶解ス〔日本局方藥—劇藥—極量一回〇〇五—一日〇〇一五〕

莨菪丁幾 Tinctur of scopolia

莨菪根中剉末一分稀酒精五分ヨリ成ル帶黃褐色ノ液ナリ〔日本局方藥—劇藥—極量一回一〇—一日三〇〕

處方

莨菪越幾斯 〇〇六 鹽酸キニーチ 〇二四

右調勻爲三九一日三回ニ分服セシム—三又神經痛鎮靜劑

雙蘭菊根

Roots of Aconite

「アコニット、ナヘルニス」Aconit-napellus ノ球根ヲ花時ノ終リニ採集シ乾燥シタルモノニシテ類黑色ヲ帶ヒ少シク縱皺アル蕪菁形ナリ其橫斷面ハ第一期皮層ニ於テ類黑色ヲ第二期皮層及木部ニ於テ白色ヲ呈シ苛辣性ノ味ヲ有ス〔日本局方藥—劇藥〕

本藥ノ主成分ハ「アコニチン」Aconitine, $C_{34}H_{47}NO_6$ ト名ケル「アルカロイド」ニシテ猛烈ナル毒性ヲ具エ藥用トシテ多ク供セラルス

雙蘭菊越幾斯 Extract of Aconite 雙蘭菊根中剉末十分酒精二十五分ヲ二日

間温浸シ壓漉シタル後其殘渣ニ酒精三十分ヲ加ヘ壓漉シ其液ヲ前漉液ニ合シ蒸發シテ稍ヤ稠厚ノ越幾斯トナセルモノニシテ褐色ヲ呈シ酒精ニ澄明ニ溶解ス〔日本局方藥—劇藥〕

雙蘭菊丁幾 Tinctur of Aconite 雙蘭菊根粗末一分稀酒精十分ヨリ成ル黃褐色ノ液ニシテ味初メ微ニ苦ク後辛辣灼クカ如シ〔日本局方藥—劇藥〕

生理的作用

第一章 鎮靜劑—鎮痛劑

毒物

雙蘭菊根ノ作用ハ其主成分タル「アコニチン」ニ出ツルモノナリ
局處的作用

「アコニチン」ハ皮膚粘膜ニ於ケル知覺神經末梢ヲ刺戟シテ癢痒、刺痛、温感ヲ與ヘ次テ疼痛灼熱ヲ繼發ス但シ發赤スルコトナシ斯ル症狀ハ漸次消退シ麻痺狀態ヲ代リ生セシメ以テ痛覺、觸覺、温感等ヲ消失セシム而シテ本刺戟ノ口腔粘膜ニ於ケル知覺神經末梢ニ加ハルヤ反射的ニ唾液分泌ヲ増進セシメ鼻粘膜及胃粘膜ニ於ケル知覺神經末梢ニ加ハルトキハ反射的ニ嘔吐并ニ嘔吐ヲ發セシム
吸收的作用

本劑ハ粘膜、漿液膜、皮下蜂窩織及皮膚(クロ、フォルム)溶液ノ場合ヨリ速ニ吸收セラレ最モ能ク呼吸器系統ヲ侵スモノニシテ其中樞ノ亢奮ト肺臟ニ達セル迷走神經知覺枝ノ亢奮トヲ以テ呼吸ヲ困難ナラシメ次テ中樞ノ麻痺ヲ以テ之ヲ遏止シ且之ニ基テ起ルトコロノ痙攣ノ下ニ致命セシムサレド大脳及脊髓ハ侵サル、コト少ク就中大脳ノ機能殊ニ意識ハ呼吸遏止ニ依テ斃ル、マテ保存セラ
ル、コトアリ彼ノ數々起ルトコロノ痙攣ノ如キハ運動神經末梢ノ亢奮ニ關スル

モノニシテ纖維性筋痙攣ニ他ナラズ循環器系ニ在テハ主トシテ心臟ニ於ケル神經裝置ノ變化ヲ起シ敢テ中樞的ニ來ルモノナシ即チ初メ心臟自動神經節ノ亢奮ニ依テ心動ハ活潑トナルモ次テ起ル心臟自制神經ノ亢奮ヲ以テ却テ緩慢トナリ終ニハ兩神經機ノ麻痺ノ爲メ遏止スルニ至ル
大量〇〇〇五ヲ頓服スルトキハ流涎、嘔吐、腹鳴、下痢、全身温感并蟻走感、頭痛、眩暈、耳鳴、瞳孔散大、視覺障礙、筋痙攣、脈搏細微不整、體温沈降、呼吸困難、知覺脫失等ヲ來シ終ニハ昏睡、人事不省ニ陥リ呼吸麻痺ヲ以テ斃ル之ヲ急性雙蘭菊中毒

Acute Aconitismus ト名ク

救治法 硫酸銅ノ投與又ハ他法ヲ以テ毒物ノ排除ニ努メ解毒的洗滌法トシテ鞣酸水ノ灌注ヲ施シ對症法トシテハ亢奮藥投與并干泥若クハ他皮膚刺戟法及人工呼吸法ヲ要ス

吸收後ニ於ケル本劑ハ一部腎臟ヲ經テ尿中ニ排泄セラレ、コト明カナルモ一部ハ恐ラク體內ニ於テ分解スルモノ、如シ

應用法并其藥理

主治 越幾斯ハ、〇・〇〇五—一〇・〇〇一ヲ一回量トシテ一日二三回丸劑又ハ溶液ニ調勻シ三又神經痛、痛風性齒膜炎及痛風性神經痛生齒時齒齦充血等ニ用キラル其炎症ニ對スル効驗ハ本劑ノ動脈壓力ヲ下降セシムルコト與テ一部ノ原因ヲナスモノトス丁幾モ亦「リウマチス性齒痛或ハ同神經痛ニ對シ効果ノ生スルマテ毎時一滴宛内服セシメ又小兒生齒時齒齦充血ニ對シ毎時四分ノ一—二分ノ一滴宛ヲ動脈沈靜ニ至ルマテ反覆ス此際甘硝石精ヲ配伍スルトキハ解熱効驗ヲ伴フノ利アリ

局處的應用 越幾斯ハ軟膏、擦劑トシテ三又神經痛ニ用キラレ—丁幾ハ其脈管ヲ收縮セシムル作用ヲ提ケテ表層性炎例之ハ齒石、齒齦帶鉤等ノ刺激ニ來ル齒齦游離綠炎ヲ消散セシメ又ハ齒石除去後齦緣ノ發炎ヲ豫制スルニ用キラル

極量 雙蘭菊越幾斯 一回〇・〇一五—一日〇・〇〇五

處方

雙蘭菊丁幾 〇・五 甘硝石精 三〇・〇 「グリセリン」 一五・〇
「シンナモン」水 一〇〇・〇

右調勻—二歲小兒生齒時齒齦充血ニ對シ毎時半茶匙ヲ水ニ和シ投與ス「ロンゲ」
氏 Long]

第五節 解熱劑

解熱劑 Antipyretics トハ熱性ニ昇騰セル體温ヲ減降セシメ又熱性ナラサル體温昇騰例之ハ温浴、夏期運動等ニ基クモノヲモ自然ニ放任スルヨリハ比較的速ニ平衡セシムル性能ヲ有スル藥劑ノ謂ニシテ尙其大量ハ常温ヲスラ亦減降セシムヘシ

本劑ノ作用ハ疾病自己ノ性質ニ關スルヨリハ寧ロ熱ノ性質並ニ之レカ應用ノ時期ニ依リ左右セラルベキモノニシテ即チ稽留性ノ高熱若クハ漸次高熱ニ違セントスル時期ニ方テハ効驗シ難ク間歇性若クハ弛緩性ノ熱ニ對シ効アルコト是レナリサレト其作用タルヤ藥劑ノ種類及應用ノ時期ニ拘ラス凡テ一過的ノモノタリ而シテ斯ノ如キ解熱作用ノ原理ニ至テハ各劑一樣ナラハシテ或ハ體温調節中樞温發生部域ヲ沈衰セシムルニ由リ或ハ誘熱的有機酸酵素ヲ撲

第一章 鎮靜劑—解熱劑

滅スルニ由リ或ハ組織細胞ノ酸化機減退ヲ生セシムルニ由リ或ハ體表脈管ノ擴張ヲ以テ温放散ヲ増加セシムルニ由ル等アリ

次テ本作用ノ經過間ニ於テ概ネ毎ニ伴ハルヘキ發汗ハ既ニ健體ニ在テ認メラル、モ殊ニ熱性病者ノ體熱下降時ニ著シ是レ恰モ解熱作用ニ對シ樞要ナル現象ノ如ク思惟セラルレド決シテ缺クベカラサルモノニアラスシテ寧ロ解熱劑固有ノ副作用ニ過サルモノナリ

以上解熱劑ノ作用ハ抑モ對症的ノモノニシテ未ダ毫モ病性ヲ轉移スヘキモノニアラス且熱ノ發スルヤ疾患ニ對スル生活體ノ反應的現象ニシテ自然療能ヲ意味スルコト尠カラサルカ故之ヲ用ウルノ要ハ唯發熱ニ伴フ苦悶ヲ緩解制止シ以テ體力ノ消耗ヲ多少減セシムルニ在ルノミ

アンチピリン フェニールニメチールピラゾロン

Antipyrine — phenyl di-methyl-pyrazolone, C₁₁H₁₂N₂O

無色稜柱狀結晶或ハ白色結晶性粉末ニシテ殆ント無臭味ハ微ニ苦ク攝氏百

十三度ニ熔融シ等分ノ水酒精(クロ、フォルム)及五十分ノ「エーテル」ニ溶解シ中性ニ反應ス(日本局方藥—劇藥)

本劑及其屬ノモノハ凡テ人工的アルカロイドナリ

生理的作用

局處的作用

刺激作用ヲ具フルモ健全ナル皮膚ニハ之ヲ及ホスコト能ハス粘膜及創傷面ニ僅カニ之ヲ與ヘ後輕度ノ知覺麻痺ヲ來シ皮下ニ注射スルトキハ稍々強キ刺激ニ次テ知覺脫失ヲ招ク是レ恐ラクハ該部毛細管ヲ收縮セシメ一時營養供給ノ變化ヲ起シテ以テ神經力ヲ減衰セシムルニ基クナルヘシ而シテ此脈管收縮作用ノ現發ニ至テハ出血面ニ本劑濃稠液ヲ貼シ止血ヲ得ルコトニ依テ證セラ

吸收的作用

本劑ハ消化器粘膜及皮下組織ヨリ容易ニ吸收セラレ特ニ腦ニ存スル温調節

中樞溫發生部域ヲ侵シ其機能ヲ減衰又ハ麻痺セシメ以テ體溫ヲ降下セシムサレド健體ニ在テハ一〇—三〇—スラ尙少シモ本現象ヲ來サズ却テ數々僅微ノ昇騰ヲ招キ大量ニ由リ始メテ二—三分稀ニ一度許ヲ減降セシムルノミ熱性病者ノ體溫ハ〇・五—二・〇ヲ以テシテ既ニ三時—五時間後二—二度ヲ二・〇—四・〇ヲ以テシテハ頗ル急速ニ三時—五時後其最低極度ニ下降シ通例四時間持續ス加之脈管運動中樞ノ減衰ニ基キ皮膚脈管擴張シテ血行ヲ體表ニ多カラシメ爲メニ多量ノ血液ハ外氣ニ觸レテ冷却シ汗排泄水蒸氣發散並體溫放散等ノ増進ヲ來シ一面體溫ノ減降ヲ幫助ス

斯ノ如キ特異作用ノ中樞神經系一部域ニ與エラル、ニ拘ラス他部域及循環器系統ニ以テ其作用ヲ被ムルコト僅微ニシテ一回二・〇—四・〇(一日一〇〇)モ時ニ頭痛脈搏僅微ノ減少若クハ増加發汗催眠ヲ來スニ過キス而シテ其脈搏ノ減少ハ體溫下降ノ結果ニシテ必シモ本劑直接作用ノ與ルトコロニアラス
以上ノ經過間ニ於テ數々不快ナル現象ノ伴ハル、ヲアリ是レ所謂副作用ニ就中最モ多キハ紅斑様又ハ麻疹様皮膚疹ノ發生ナリ這ハ皮膚脈管擴張ノ爲メ

多量ノ血液體表ニ灌漑セラル、ニ由テ來リ通例之ヲ持長シテ全量五〇〇内外ニ達シタル頃ニ多ク時ニ又特異質ニ關シ少量ニテモ來ルベシ之ヲアンチピリン Antipyrinexantheme ト云フ後用ノ廢止ト共ニ消散スルヲ常トスルモ數々慢性ノ經過ヲ取リテ紫赤色斑點ヲ貽スコトアリ

大量或ル一例ニ於テ八・〇ヲ頓服スルトキハ胃部及腸部疼痛惡心嘔吐精神衝動顔面潮紅脈搏增多迅速心悸動筋肉搖擗等ヲ來シ次テ寒戰ヲ發シ時ニ虛脫ニ陥ルコトアリ之ヲ急性「アンチピリン」中毒 Acute-Antipyrinismus ト稱ス

救治法 少量ノ「カフィーチ」ヲ皮下ニ注射シテ神經中樞及心筋ノ亢奮ヲ圖リ解毒料トシテ「アトロピン」鹽又ハ「ツネラドン」ヲ皮下注射ヲ行ヒ且臨機ノ對症法ヲ要ス

本劑ハ吸收後一部硫酸ト抱合シ一部ハ變化スルコトナク共ニ尿中ニ排泄セラル爲メニ尿ハ深黄色乃至暗橙黄色ヲ帶フルニ至ル

應用法并其藥理

主治 急性齒根膜炎殊ニ膿瘍形生期ニ於ケル發熱又ハ拔牙後ノ熱昇騰ニ對シ一回量〇・五—一・〇ヲ粉劑トシテ一日三回服用セシム生後六ヶ月—十八ヶ月

第一章 鎮靜劑—解熱劑

ノ間ニ於テ數々發起スル所謂生齒熱ニ對シ其月數ニ對スル「センチグラム」年數ニ對スル「デシグラム」ヲ一回用量トシテ一日二回投與スルヲ得

鎮痙攣眠鎮痛の應用

幼兒生齒期搖擗ニ對シテ〇・一—〇・二ヲ投與シ三叉神經痛「リョウマチス」又ハ痛風性齒痛等ニ對シ一回一〇ヲ投與シ若クハ五十%水溶液四分ノ一—一筒〇・一二五—〇・五ヲ皮下ニ注射シ急性齒根膜炎ニ對シ一回一〇ヲ頓服セシム

禁忌症 心臟病咯血高老者

局處的應用 脈管收斂性止血劑トシテ、多量水溶液ヲ棉花ニ浸シ又ハ噴霧器ヲ以テ出血面ニ用キラレ但シ齒槽出血ニ對スル効驗ハ凝固性止血劑ニ及フ能ハス是レ骨中ニ斷絶シタル脈管ハ其斷端收縮ノ爲メ内方ニ牽引セラレ本劑ノ收縮作用ヲ加フヘキ筋肉組織ノ箇中ニ現出シ居ラサルヲ以テナリ

配伍禁忌 熔性石炭酸及亞硝酸エリテル精ト配伍スヘカラス亞硝酸エリテ

ル精トハ有毒ナル窒素化合物ヲ生ス

製劑

アンチピリン錠 Tablets of antipyrine

「アンチピリン」二十五分乳糖七十五分ヨリ成リ一錠中〇・二五ノアンチピリンヲ含ム〔日本局方藥—劇藥〕

處方

「アンチピリン」 三〇 蒸餾水 五〇〇 桂皮舍利別 二〇〇

右調勻解熱鎮痛料トシテ一日三回又ハ二日六回ニ分服セシム

「アンチピリン」 臭素アムモニア 各〇・五 枸橼酸カフイーネ 〇〇・一

細草酸「コカイン」 〇〇・二

右調勻鎮痛料トシテ神經痛ニ對シ其發作間頓服セシム

アセトアニリド

Acetanilide, C₈H₉NO

光輝アル無色葉狀結晶ニシテ臭氣ナク味微苦辛辣攝氏百十三度ニ融シ二百三十分ノ水二十二分ノ沸湯ニ溶解シ「エーテル」「クロ、フォルム」酒精ニハ溶解シ易ク中性ニ反應ス〔日本局方藥—劇藥慣用藥名〕アンチヘプリン

第一章 鎮靜劑—解熱劑

生理的作用

本劑ハ局處ニ作用セス消化器粘膜ヨリ吸收セラレテ「アンチピリン」ヲ如ク中樞神經系ノ亢奮性ヲ沈メ以テ鎮痛并ニ催眠ヲ誘起ス

本劑ノ解熱作用ハ「アンチピリン」ニ類シテ且強ク〇・二五ハ以テ彼レノ一・〇ニ對比スト評價セラル熱症者ニ對シ通例〇・二五—〇・四ハ一時間ノ後解熱作用ヲ起シテ三時—五時間ニ及フ頃最低極度ノ減熱ヲ示シ三時—十時間持長スサレト一般作用ハ健體ニ對シ尋常藥用量タル〇・二—〇・五ヲ以テ極メテ僅微ニ現發シ微弱ナル藍色症及嗜眠ヲ起スニ止マレリ

極量ヲ超ユルトキ若クハ藥用量ノ持久ハ蓄積ノ爲メ中毒症狀ヲ呈ス其主要アルモノハ神經中樞及心臟ノ侵サレタル結果トシテ耳鳴頭部昏壞心悸動脈搏不整頻數藍色粘汗惡寒齒牙呼吸困難次テ昏惰肢軀間代性痙攣譫語人事不省時ニ虛脱ニ陥ル本中毒ハ「アンチピリン」ニ比シ發起スルコト多ク且危險夥シ

救治法 硫酸ナトリウム、蓖麻子油等ヲ以テ排泄ヲ促シ對症法トシテ身體摩擦溫

覆「カムフラア」、エーテル劑ノ皮下注射、温「カフィー」ノ投與等ニテ救済スルヲ得サレト概子貧血、衰弱、眩暈等ヲ殘留ス

副作用 藍色症ハ中毒量ニ依ラスシテ數々發スルコトアリ是レ赤血球溶解シテ血中ニメトヘモグロビン「ナ」化生シ血液ノ爲メニ變色セシメラル、ニ歸着シ若シ消退ヲ圖ラシスシテ更ニ持長スルトキハ終ニ「ア」ニ「惡液質 Anilinathesia」ニ類スル貧血症狀ヲ起スニ至ル 虚脱モ亦少量ニテ數々發起ス道ハ恐ラキ發熱性亢奮狀態ニ敵ハレ居タリシ中樞及心臟衰弱現象ノ解熱劑ニ由ル急卒ナル減熱ニ達ヒテ俄然現ハル、ニ由ルカ如シ「齒牙ノ變色ハ「アンチピリン」ニ由テモ亦來ルモノニシテ是レ恐ラクニ溶解血色素ノ細血管ニ沈着スルニ出ツルモノナルヘシ但シ酸化漂白法ニ由テ漂白スルヲ得

本劑ハ吸收後二十四時ニシテ漸ク尿ニ排泄セラル其循行ノ經路ニ於テ大部分ハ「バラアミドフェノール」ト抱合シ一部ハ硫酸及「グリクロン」酸ト抱合スルニ似タリ

應用法并其藥理

主治 急性齒膜炎ニ隨伴スル發熱ニ對シ一回〇・一—〇・五ヲ粉劑トシテ一日三回迄投與ス小兒生齒熱及「デフテリー」ニ「アンキナ」等ニ伴ハル、發熱ニ對シテハ

第一章 鎮靜劑—解熱劑

年齡一歳ニ付〇・〇一ノ割合ヲ以テ内服セシムルモ殊ニ本量分服法ヲ安全トス
鎮痛の應用 神經痛及リヨウマチス性疼痛等ニ用ウルコト「アンチピリン」ニ
於ケルカ如クス一回用量〇・一—〇・五

極量 一回〇・五—一日一・五日本局方藥

禁忌症 「アンチピリン」禁忌症ハ又本劑禁忌症ナリ且假令此等疾患ヲ有セザ
ル者ト雖持長スベカラズ殊ニ小兒ニ對シテ一層ノ注意ヲ要ス

製劑

アンチカムニア Antikamnia

「アンチヘブリン」七容重炭酸ナトリウムニ容ヨリ成レル白色結晶性粉末ニシ
テ主藥ニ類スル味ヲ有セリ用量一回〇・三—〇・六(非局方藥)別ニ「アンチカムニア」
錠 Tablets of Antikamnia ナルモノアリ毎二三時一錠宛ヲ齒膜炎、神經痛等ニ對シ
投與ス「ロンドンアンチカムニア藥品會社製劑 The Antikamnia Chemical Co.,
London, E. G.]

處方

「アセトアニリド」〇・二五 「フェナセチン」〇・五

右調勻解熱鎮痛料トシテ一回ニ投與ス「グラッセル氏 (Grassell)」

フェナセチン Phenacetine, $C_{10}H_{11}NO_2$ 光輝アル無色ノ小葉狀結晶ニシテ臭味共ニ

ナク攝氏ノ百三十四度—百三十五度ニ熔融シ水ニ溶解シ難ク約七十分ノ沸湯
及約十六分ノ酒精ニ溶解シ中性ニ反應ス本劑化學名ヲ假性「アセトフェナチン」
Para-acet-phenetidine ト稱ス(日本局方藥—劇藥)

本劑ノ作用ハ「アセトアニリド」作用ノ弱キモノニシテ其〇・五—〇・七ハ健體
ニ對シ殆ント影響ナク一〇—二〇ニ依リ倦怠、欠伸、嗜眠ヲ生シ稀ニ眩暈、輕キ惡
寒、惡心ヲ來スコトアリ熱病者ニハ〇・二五—〇・五ヲ以テ多數ノ場合多量ノ發汗
ヲ伴ヘル著明ノ溫度下降ヲ招キ夫ハ六時—十時間持續セラル而シテ這際概テ
快安ノ感ト嗜眠トヲ呈ス要スルニ其解熱作用ハ「アセトアニリド」ト「アンチピ
リン」トノ中間ニ位シ一〇—二〇「アセトアニリド」ノ〇・五ニ「アンチピリン」ノ二〇ニ

匹敵ス「ホイヌネル氏 (Heuser)」

第二章 鎮靜劑—解熱劑

第二章 鎮靜劑—解熱劑

本劑ノ効驗ハ「アンチピリン」ヨリ有カナルモノニシテ主治的用途ニ對シテハ
〇・二五—〇・五二歳—五歳ノ小兒ニハ〇・〇三—〇・一ヲ一回量ト定メ一日三回粉
劑ヲ内服セシメ漸次増量スベシ—鎮痛的用途ニ向テハ稍々多量即チ〇・五宛一
日五六回反覆スルヲ要ス本法ハ齒根膜炎、三叉神經痛ニ効アリ
極量 一回一〇—一日三〇

サリチル酸ナトリウム Salicylate of Sodium, $\text{NaC}_7\text{H}_5\text{O}_2$ 白色鱗屑狀ノ結晶若ク

ハ結晶性粉末ニシテ臭氣ナク味甘鹹稍辛辣ナリ一分ノ水、六分ノ酒精ニ溶解ス
〔日本局方藥〕

本劑ハ局處刺戟ヲ缺クノ他渾テ「サリチル」酸ニ均シキ作用ヲ有セリ但シ防腐
力ニ至テハ殆ント之ヲ具エス

主治的効驗ハ「リョウマチス」性發熱、齒膜炎ニ伴フ發熱等ニ對シ現ハルヘク通
例一回一〇—三〇ヲ投與ス—鎮痛ノ目的ヲ以テ齒髓炎、齒膜炎、牙質知覺過敏症、
三叉神經痛等ニ毎半時〇・六ヲ内服セシム

用量 一回一〇—五〇

局地的應用 口腔清淨藥トシテ露口瘡、亞布答等ノ含嗽料ニ二十多水溶液ヲ用キ

ワル

製劑 「サリチル」酸ナトリウム錠 Tablets of salicylatesoda ハ主藥五十分乳糖五

十分ヨリ成リ一錠中〇・五ノ主藥ヲ含有スルモノニシテ〔日本局方藥〕内用ニ供セ
ラル

アセチールサリチル酸 Acet-salicylic acid, $\text{C}_9\text{H}_9\text{O}_4$ 白色ノ結晶性粉末ニシテ殆

ンド無臭攝氏百三十五度ニ熔融シ水ニ僅微熱湯、酒精「エーテル」ニ溶解シ易シ本
劑ハ慣用名ヲアスピリン Aspirine ト云フ〔日本局方藥〕

用量 一回〇・五—一〇—一日三回

サリチル酸アンチピリン Antipyrine salicylas, $\text{C}_{11}\text{H}_{12}\text{N}_2\text{O}_4\text{C}_7\text{H}_5\text{O}_2$ 白色結晶性粉或ハ

六邊形板狀結晶ニシテ無臭微甘攝氏九十一度—九十二度ニ熔融シ約二百分ノ

水二十五分ノ沸湯ニ溶解シ「クロ・フォルム」酒精ニハ容易ニ「エーテル」ニハ較々溶解ス本劑ハ慣用名ヲ**ザリピリン** Salipyrine 化學名ヲ「サルチル酸」フェニールニメチールピラツオン」Salicylate-phenol-di-methyl-pyrazolone ト云フ〔日本局方藥〕
 用量 同前||本劑ハ前藥ト共ニザリチル酸「ナトリウム」代用藥トス

第二章 亢奮劑

亢奮劑 Stimulants トハ中樞又ハ末梢神經系ノ亢奮性ヲ振起セシメテ體系ノ運營ヲ一時的ニ且迅速ニ發揚セシムルトコロノ藥劑ノ總稱ナリ
 而シテ其亢奮現象ヲ要求セラレタル或部器官ニ直接作用ヲ與フルモノ例之ハ**心筋ヲ刺戟シテ其衰弱ヲ回蘇セシムル「カムフォア」**ノ如キハ之ヲ**直接亢奮劑 Direct stimulants** ト稱ス此ニ屬スルモノハ其際器官細胞ノ潛精力ヲ發サシメ之レカ窮乏ヲ來サシムル傾向アルテ其窮乏ノ迅速ナルトキハ終ニ亢奮ノ目的ヲ敗ルベキカ故撰擇上周到ノ注意ヲ要ス此種類ヲ又**運動性刺戟劑 Kinetic stimulants**

ト云フ

直接亢奮劑ニ對シ**間接亢奮劑 Indirect-stimulants** ナルモノアリ其効驗ハ一ハ末梢知覺神經ノ刺戟ニ由ル反射的ノ結果ニ出ツルモノ例之ハ酒精「エーテル」アムモニア等ノ口腔粘膜乃至鼻腔粘膜ヲ刺戟シテ中樞亢奮ヲ起サシムルガ如キニシテ之ヲ**刺戟性亢奮劑 Irritant-stimulants** ト稱ス或ハ其効驗ノ**彌散性ナルカ爲メ彌散性亢奮劑 Diffusible-stimulants** トモ云フ一ハ亢奮現象ヲ要求セラレタル器官ノ機能ヲ阻止スヘキ裝置ノ亢奮状態ヲ抑制シテ結果スルモノ例之ハ迷走中樞心動制止神經ヲ沈衰セシメテ心動ヲ回復セシムル**硝基グリセリン**「アトロピン」ノ如キ是レナリ但シ各種亢奮劑ノ作用ハ過度藥量ニ於テ凡テ**麻酔的ニ偏勝スルヲ忘ルヘカラス**

第一節 刺戟性亢奮劑

酒精 エチールアルコール
 Spirit — Ethyl-alcohol

酒精
 エーテル
 硝基グリセリン
 アトロピン

第二章 亢奮劑—刺激性亢奮劑

無色澄明揮散性ノ液ニシテ中性ニ反應シ特異臭透香ト灼樣味ト有シ點火
スレバ淡藍色ノ火焰ヲ放テ燃燒ス本劑ハ容積ニ於テ九〇%—九二・五%米局九
五%重量ニ於テ八五・六%—八七・二%米局九二・三%ノ純「アルコホール」 CH_3O ヲ
含有シ〇・八三—〇・八三四ノ比重ヲ呈ス(日本局方藥)

美
酒
有
益
公
益

生理的作用

本劑作用ノ原因ハ蛋白質ヲ凝固シ且組織ヨリ水ヲ抽出スルニ在リサレド其
蛋白質ハ極メテ薄弱ナル者ニシテ組織ノ「アルカリ」液ニ由テ再ビ溶解セラル
局處的作用

濃稠ナルモノハ粘膜ニ對シ初メ燒灼樣ノ感ヲ與ヘ疼痛ニ移リ次テ冷感ヲ貽
スモ是等ハ直ニ消失シテ表層ノ白變ヲ以テ代リ爲メニ該部ハ異物ノ被蓋スル
カ如キ感アリ終ニ剝離シテ常態ニ復歸ス健康ナル皮膚ハ鞏固ナル角質ニ由テ
下層知覺構造ヲ庇護セラル、故著シク侵サル、コトナク只持長若クハ摩擦ニ
由テ清涼ヲ覺ユルノ後輕度ノ潮紅ヲ來スニ過ギス
内用スルトキハ其初メ「エーテル」ニ於ケルト等シク香味ノ鼻腔及口腔粘膜ニ

存スル知覺神經末梢ヲ刺戟スルニ由テ求心的ニ中樞神經系ヲ亢奮セシム是レ
酒精ニ有スル真正ノ亢奮作用 Alcoholic stimulation ナリ而シテ内用量ノ少キトキ
ハ消化管全徑ニ亘テ單純ナル溫暖及緊搾樣感ヲ與ヘ消化液ノ反射的分泌增加
并ニ吸收機能ノ興進ヲ來シテ消化ヲ催進スルモ多量ハ胃液分泌及「ペプトン」形
生ヲ害シ連用ハ慢性加答兒ヲ大量ハ急性胃腸炎ヲ誘發ス

救治法

重曹、カル、ス、最鹽、鹹味食物ノ類ヲ投與シテ抱合セシムベシ

吸收的作用

本劑ハ皮膚粘膜皮下組織ヨリ吸收セラレ用者ノ年齡體質習慣等ニ從テ其作
用ヲ異ニス然レモ之ヲ要スルニ少量ナルモ恰モ精神機能ノ亢奮セルガ如キ
狀態即チ快安歡喜ヲ感シ大聲ヲ放テ頗ル饒舌トナリ動作活潑トナル等并ニ呼
吸脈搏ノ増加體表殊ニ顔面ノ潮紅色澤增加溫暖ノ感隱視シテ眼光ヲ添ウ遺ハ
眞ノ亢奮現象ニアラズ却テ中樞神經系一部ノ麻痺ヲ意味スルモノナリ例之
ハ精神機能ノ發揚狀態ハ大腦ノ一部精神界ノ麻痺セルガ爲メ精細ナル注意判
斷反省力等ノ減耗ニ由來シ脈搏ノ増加ハ活潑ナル動作ニ胚胎シ呼吸ノ増加ハ

第二章 亢奮劑—刺激性亢奮劑

一面中樞機能ノ減衰一面循環機ヨリノ影響ニ歸着シ體表殊ニ顔面ノ潮紅色澤増加シ脈管運動中樞中ノ皮膚顔面ニ分佈セル脈管ヲ司宰スル部ノ減衰ニ出デ溫暖ノ感ハ皮膚ニ循行シタル血液ノ增量及温暖中樞ノ鈍麻ニ基因スルガ如シ小量ノ持長ハ漸次慣了シテ程度マデハ著シキ作用ヲ呈セサルモ常習性飲用者ニ在テハ營養障礙ノ結果終ニ慢性酒精中毒 Chronic alcoholismus ヲ來スベシ其主要ナル徵候ハ器質的變化トシテハ消化器系ノ加答兒肝臟腎臟心臟及脈管ノ脂肪變性并結締織増殖等ニシテ是レ體内ニ於テ蛋白分解脂肪沈積ヲ旺盛ナラシムルニ由ル之レガ爲メ又多ク鼻ニ蓄積色粉刺所謂酒皰鼻 Acne-rosacea ヲ生ズ機能的變化トシテハ思考力記憶力ノ減退甚シキハ痴呆 Alcoholic-Imbecility ニ陥リ言語滯滯震顛行步蹣跚等ヲ生シ又ハ妄想不安不眠躁狂等ヲ起ス之ヲ酒客譫妄 Delirium-tremens ト名ス

救治法 漸次節減シテ慣用ヲ廢シ適宜ノ運動ヲ取ラシメ對症療法トシテハムストリヒニン 10.000—50.000—100.000—250.000 二五宛一日二三回皮下ニ注射スベシ之ニ依テ呼吸及脈管中樞ヲ亢奮セシメ得ン

酒客譫妄ニハ適量ヲ持續セシメ傍ヲ阿片抱水クロラール、フェルフォナールヲ投シ温浴中特ニ背部ニ冷水ヲ灌キ嚴正ナル看護ヲ要ス應用ハ却テ危險ナル禁避現象ヲ招ク虞アリ

多量ノ頓服ハ精神漸ク麻酔シテ五官機能遲鈍トナリ終ニ睡眠ヲ催シ醒覺ノ後頭痛眩暈倦怠及胃炎症狀ヲ殘貽ス

甚シキ大量ナルトキハ泥酔ノ狀ニ陥リ觀察力及判斷力非常ニ減退シ意思錯綜シ終ニ嗜眠ヲ起シ極度ニ至レハ脊髓麻痺反射喪失シ呼吸緩徐鼾聲ヲ放テ脈管運動中樞麻痺ノ爲メ就中體表脈管ノ擴張ヲ來シテ温ノ發散ヲ多クシ且温調節中樞麻痺ヲ以テ體温ハ下降シ皮膚厥冷ス是レ泥酔者ノ數々凍死スル所以トナス次デ人事不省ニ陥リ往々死ニ轉歸スルコトアリ之ヲ急性中毒トス

救治法 冷室ニ靜臥セシメ吐劑胃唧筒ヲ以テ内容ヲ排除シ頭部冷却皮膚刺戟殊ニ項部肺野部并ニ足趾ニ芥子泥ヲ貼シ刺戟瀉腸ヲ施シ興奮料トシテ濃厚「カフェイン」殊ニ枸橼汁ヲ和シタルモノヲ投シ或ハ硝砂精「カムフォア」等ヲ皮下ニ注射シ體温下降ニ對シテハ温浴ヲ行ヒ時ニ人工呼吸法ヲ要スルコトアリ

吸收後本劑ハ其量ノ少キトキニ在テ全ク炭酸及水ニ燃化シ盡クルモ大量ナ

レハ其一部變化セズシテ肺腎及皮膚ヨリ排泄セラレ腎臟ヲ過グル際之ヲ刺戟シテ尿量ヲ増加セシム

應用法并其藥理

主治 亢奮劑トシテハ毎ニ之ヲ含有スル酒類例之ハ葡萄酒「ブランデー」
「ウヰスキー」ノ如キ或ハ精劑例之バ「エーテル」精「亞硝酸」
「エチール」精ノ如キヲ撰ミ酒精單味ハ殆ンド用キラズ而シテ此等ノ藥劑ハ拔齒時昏倒「クロ」
「フォルム」
「麻酔中」ノ虛脱「コカイン」中毒性腦貧血ヲ首メ神經質者ニ長時施術シタル後殊ニ夏期ニ於テ或ハ大出血後ノ衰弱等ニ適用スルヲ得ベシ

葡萄酒ハ一回五〇—三〇〇「ブランデー」及「ウヰスキー」ハ三〇—一〇〇ヲ單味ニテ又「ブランデー」ニ「メントール」五%ヲ和シタルモノハ「メントール」
「Menthol」
「Bran」ト稱シ夏期昏倒ニ甚適要セリ「エーテル」精ハ十滴—三十滴ヲ「亞硝酸」
「エチール」精ハ〇・五—一・〇ヲ何レモ糖水ニ混シテ投與シ若クハ單味ヲ嗅入セシムベシ
斯ル方法ハ症狀ノ如何ニ從ヒ一日數回反復ヲ要スルコトアリ「エーテル」精ヲ皮下ニ注射スルトキハ皮下ニ於ケル知覺末梢ヲ刺戟シテ以テ反射的亢奮ヲ期待

シ得ベキモ其効ヤ「エーテル」ニ如カザルノミナラズ酒精ノ存在ニ由テ往々膿瘍ヲ形生スル虞アリ葡萄酒ハ又含有鞣酸ノ作用ヲ以テ生齒期下痢ヲ止メ傍ヲ爲メニセラレタル衰弱ヲ回復セシムルヲ得ベシ
禁忌症 中樞神經系ニ於ケル急性及慢性疾患殊ニ急性熱病經過中ノ譫妄狀能動脈硬化腎臟及心臟ノ疾患腸大潰瘍ノ存スル場合並ニ久シキ勞働後等ニハ本劑及其製劑殊ニ大量ヲ禁忌ス

局處的應用 收斂劑トシテ口腔炎其他齒齦及口腔粘膜ノ不健康狀態ニ對シ稀釋水溶液ヲ塗布セラレ毛細管出血ニ對シテ血液ノ凝固ト脈管ノ收縮トヲ扶掖シテ止血ノ効アリ葡萄酒ハ鞣酸含有ノ故ヲ以テ最モ可ナリ「ホフハイ」
「Hofmann」
²⁾水溶液ヲ齒槽漏膿ヘノ含嗽料ニ推薦セラレタリ此他收斂性丁酸ノ溶液トシテ其効驗ヲ附加スルノ利アリ—口腔刺戟劑トシテ健齒菌ヲ有スルモノニ含嗽セシムルトキハ粘液腺ヲ刺戟シテ其分泌液ノ變性セルヲ矯正シ以テ健齒菌ノ一回ヲ除クニ足ル—乾燥兼鈍麻藥トシテ窩洞又ハ根管ニ貼布スルトキハ水ヲ抽出スル作用ヲ以テ乾燥ニ兼テ牙質ノ知覺ヲ奪フニ至ル但シ本効驗ハ強酒精ニ依ラサルベカラズ若シ「クロ」
「フォルム」又ハ「エーテル」ト和スルトキハ最モ迅速ニシテ且確實ナルヲ得ベシ—
助齒藥トシテ手指及施術部ノ消毒、注射器洗滌等ニ用キラル、モ其濃度ニ大ナル關

第二章 元質類—刺戟性元質類

一 乾燥セル細菌ニ對シ無水酒精ハ假令二十四時間ノ長キヲ接觸セシムルモ何等ノ影響ヲ及ボサス而シテ容積ニ於テ(以下做之七〇%以上ノ酒精ヲ含メルモノハ其含量ノ進ムニ從テ益々其作用ヲ減弱セリ

二 胞子生殖ヲ營マサル病原菌ノ濕ヘルモノニ對シ四〇%以上ヲ含ムモノハ五分以内ニ之ヲ殺了セリ

三 四〇%以下ノモノハ遅々トシテ細菌ノ乾濕ニ拘ハラズ不確實ナリキ

四 最モ確實ナルハ六〇—七〇%ノモノニシテ乾濕兩般ノ既述細菌チ一様ニ殺了シタリ

五 菌膜ニ水分ノ或量ヲ含ムニアラサルヨリハ強酒精ヲ通過セシメスサレド三〇—六〇%ノ水ヲ含ム酒精ハ甚ダ寬入シテ之ヲ殺了スベシ

以上ノ他尙ホ石炭酸局處中毒ニ對スル解毒料トシテ體表ニ於ケル腐蝕ニハ濃厚ナルモノヲ浸潤シ胃内ニ於ケルモノニハ約四十%水溶液ヲ灌漑セラル之ニ依テ組織内ヨリ水分ヲ抽出シ以テ石炭酸ヲ稀釋弱力タラシムルニ在リ—溶媒トシテ流動越幾斯丁機假漆等ヲ調製スルニ用キ又アマルガム充填時之ヲ洗滌シテ脂肪ノ脱却ニ供ス

配伍禁忌 蛋白質ヲ凝固シ水性樹脂液ヨリ其樹脂ヲ沈降セシメ又多數ノ鹽

類鹽基類及金屬類等ノ水性溶液中ヨリ其主藥ヲ沈降セシム

製劑

葡萄酒 Vine

赤色葡萄酒ト白色葡萄酒トノ二種アリ共ニ葡萄ヨリ醸造セラル、モノニテテ佛國產ヲ著名トス而シテ新釀ニ係ルモノハ含有アルデヒド^トノ爲メ頭痛眩暈等ノ副作用アルカ故常ニ陳久ナルヲ要ス其酒精含量ハ十%—十四%ナリ(非局方藥)

ブランデー Brandy

黄色乃至褐色透明ノ液ニシテ容積ニ於テ四六—五五%ノ酒精ヲ含有セリ本劑ハ少クトモ四年間ヲ經タル穀物釀母ヨリ醸造セザルベカラズ(米國局方藥)

ウヰスキー Whiskey

帶黄色又ハ帶褐色芳香ノ透明液ニシテ容積ニ於テ四四—五五%ノ酒精ヲ含有セリ本劑ハ少クトモ二年ヲ經過シタル穀物釀母ヨリ醸造セザルベカラズ(米國局方藥)

「エーテル」精 Hoffmann 氏液 Spirit of ether—Hoffmann's solution

「エーテル」一分酒精三分ヨリ成レル無色澄明揮發性ノ液ニシテ中性ニ反應シ
〇・八〇五—〇・八〇九ノ比重ヲ有ス〔日本局方藥〕

亞硝酸「エーテル」精 甘硝石精 Spirit of nitrous-ether

硝酸三分酒精五分ヲ取リテ二液層トナシ二日間靜置ノ後重湯煎上ニ蒸溜シ
其溜液ヲ豫メ酒精五分ヲ盛リタル受器中ニ捕集スベシ但シ黃色蒸氣ヲ認ムル
コトアルハ直ニ蒸溜ノ停止ヲ要ス次デ本液ニ服性「マグネシア」ヲ加ヘテ中和シ
二十四時間ノ後更ニ重湯煎上ニ於テ最初ハ極メテ微温ヲ以テ蒸溜シ其溜液ヲ
二分ノ酒精ヲ盛リタル受器中ニ注キ溜液ヲ八分トナシ製了スルモノナリ

本劑ハ無色—微黃色澄明ノ液ニシテ佳快「エーテル」様ノ香氣ヲ有シ味ハ微甘
ニシテ灼クガ如シ水ニ澄明ニ混シ中性—弱酸性ニ反應シ〇・八四—〇・八五ノ比
重ヲ呈ス〔日本局方藥〕

稀酒精 Diluted alcohol

酒精七分蒸溜水三分ヨリ成レル澄明無色ノ液ニシテ重量ニ於テ百分中六十

一六十一分米局方ノモノハ容積ニ於テ四九・九%ノ純酒精ヲ含有シ比重〇・八九
一〇・八九六ナリ〔日本局方藥〕

第二節 運動性亢奮劑

カムフラ 精製樟腦

Camphor, $C_{10}H_{16}O$

無色透映若クハ無色半透明結晶性柔軟ノ塊片或ハ白色結晶性粉末ニシテ特
異香氣ト微苦ニシテ灼クカ如ク後清涼ヲ殘ス味ト有シ攝氏百七十五度ニ於テ
熔融シ二百四度ニ於テ沸騰シ重湯煎温ニ於テ全ク揮散シ點火スレハ煤烟多ク
光輝アル火焰ヲ放テ燃燒ス水ニ殆ント溶解セズ「エーテル」「クロ、フォルム」、酒精
等ニ溶解シ易シ之ヲ碎粉セントスルニ粘稠ナルモ僅少ノ酒精ヲ以テ濕ストキ
ハ板スカルベシ〔日本局方藥〕

生理的作用

局處的作用

第二章 亢奮劑—運動性亢奮劑

其揮散性ヲ以テ能ク組織中ニ竄透シ刺戟作用ヲ呈ス例之ハ皮膚ニ潮紅温感ヲ與ヘ口腔ニ反射的唾液分泌ノ増進ヲ來シ胃ニ冷感屢氣等ヲ招クガ如シ但シ大量ハ胃痛嘔吐惡心嘔吐ヲ誘發ス

吸收的作用

常温ニ在テハ其揮散性低ク且水ニ不溶解ナルニ依リ其吸收ノ度一様ナラサレトモ皮膚皮下組織粘膜等ヨリ各々吸收セラレテ中心神経系及心臟ヲ亢奮セシムルモ大量ハ殊ニ腦ヲ沈衰セシメテ人事不省 Delirium 又ハ搖蕩 Capsuleヲ招來スヘシ即チ

①〇六—〇五ハ全身温感脈管緊張脈搏充實頻數血壓昇騰脈管運動中樞並心筋ノ亢奮セシメラル、ニ由ル呼吸深大呼吸中樞ノ亢奮トナリ精神及運動活潑ヲ來ス

一〇—四〇ハ眩暈頭痛意志錯綜譫妄幻覺運動變調等ヲ前驅シ次テ呼吸脈搏ノ減少呼吸脈管運動兩中樞及心筋ノ減衰ニ由ル體温下降温中樞減衰嗜眠人事不省並ニ定時反復スヘキ癲癇様痙攣發作延髓ニ於ケル痙攣中樞ノ亢奮ニ出ヅ

等ヲ繼起ス之ヲ全身「カムフォア」中毒 Systemic-camphorismus トスサレド既叙ノ如ク吸收度ノ不定ナルカ爲メ當ニ前驅症狀ヲ以テ終ルコトアリ稀ニハ忽チ沈衰狀態ニ陥ルコトアリ但シ本劑ハ吸收後甚ダ速ニ其大半ノ「グリクロン」酸ト抱合シテ「カムフォグリクロン」酸ニ變スルヲ以テ假令劇シキ中毒症モ速ニ經過シ去リ危險ヲ招クコト頗ル稀有ナリ

變化シタル本劑ハ腎臟ヨリ排泄セラレ爲メニ尿ニ還元性ヲ附與シ殘部大半ハ變化セスシテ肺汗腺ヨリ排泄セララル

防腐力ハ本劑ハ「エーテル」性油ノ通有性トシテ下等動物殊ニ關節肢族ヲ容易ニ殺了シ又原形質毒トシテ白血球ノ「アミロイ」様運動ヲ制止スル作用アリ

應用法並其藥理

主治 本劑ノ作用ハ直接的ナルカ故亢奮劑中ノ優勝者タルニ價ヒシ酒精トハ比較撰擇モラルベシ

本劑用法中最モ有力ナルハ皮下注射ナリ「カムフォア」一分ヲ九分ノ「エーテル」若クハ「オレーフ」油ニ溶解シタルモノ半筒—二筒—二筒ヲ常量トス或ハ之ヲ嗅入

第二章 亢奮劑—運動性亢奮劑

セシムルモ可シ内用時ニハ一回〇・二ヲ散劑丸劑溶劑等トシ一日數回ノ反復ヲ要ス灌腸時ニハ水ニ不溶解ニシテ吸收遲キヲ以テ乳劑トセサルヘカラス
用量 皮下注射量〇・〇五—〇・一

局處的應用 ニハ毎ニ「カムフオア」精及既述「カムフオエノール」、「カムフオクロラトル」トシテ供セラル「石炭酸樟腦及抱水」クロラール論參照而シテ「カムフオア」精ノ抱水溶液ハ口腔印象採得時該部粘膜ノ知覺ヲ鈍麻セシムヘク塗布撒霧セラレ或ハ腐敗體管ノ消毒ノ爲メニ洗滌ニ供セラルノ精劑單味ハ誘導料トシテ三叉神經痛、リョウマチ、急性齒痛等ニ塗布セラル

製劑

カムフオア精樟腦丁醇 Spirit of Camphor or Tinctur of Camphor

精製樟腦一分酒精七分ヲ混溶シ蒸餾水二分ヲ加ヘテ製スルモノニシテ澄明無色ノ液ナリ〇・八八五—〇・八八九ノ比重ヲ有ス〔日本局方藥〕

處方

「カムフオア」末 麝香 各〇・五 白糖 五〇

右調勻爲十包毎二時一包宛口授〔完〕

「カムフオア」末 〇・五 雞卵黃 一箇 水 一〇〇・〇

右調勻爲乳劑〔瀉腸料〕

第三章 排泄劑

排泄劑 Eliminatives トハ各部排泄器管ノ機能ヲ促進セシメテ生體ノ造成營爲ヲ終リタル所謂廢物ヲ首トシ病的產生物并沈滯物等ヲ體外ニ驅逐スルトコロノ藥物ヲ總稱ス而シテ之レガ排泄ノ經路ノ異ナルニ從ヒ其腸管ヨリセシムルヲ下劑 Cathartics 腎臟ヨリセシムルヲ利尿劑 Diuretics 氣管枝ヨリセシムルヲ祛痰劑 Expectorants 皮膚ヨリセシムルヲ發汗劑 Diaphoretics 等ト稱ス單リ吐劑 Emetics ナルモノハ胃内容ヲ排泄セシムルニ在リト雖元來嘔吐作用タルヤ正規ノ排泄作用ニアラス寧ロ刺戟ノ結果或ハ疾患ノ一徵候トシテ見ルヘキモノナリ茲ニ只古來ノ慣用ニ據リ又敢テ排泄劑ノ伍ニ列セリ

第三章 排泄劑

利尿劑ト發汗劑トノ關係 腎臟ノ排泄スル水量ハ特ニ皮膚ノ活動ノ影響ヲ受テ大ニ變化セラル、モノナリ夏季ニ於テ發汗ノ任意ニ起ルトキ尿量ハ僅少トナリ(但シ過潤ナリ)冬季寒冷ノ皮膚排汗ヲ減スル爲メ尿量ハ大量トナル(但シ稀釋ス)是レ利尿劑及發汗劑ノ施與ニ關シ致フヘキトコロトス

第一節 下劑

腸管壁ヘノ局處的刺戟ヲ以テ其蠕動機ヲ促進シ更ニ之ニ由テ腸内水分ノ吸收ヲ妨グテ糞便ノ軟化ト其推移トヲ併セ用キテ之ヲ體外ニ排泄セシムルトコロノ藥劑ヲ下劑ト稱ス而シテ其作用ノ程度ニ準シテ三小分ス軟下劑、緩下劑、峻下劑是レナリ

軟下劑 *Apertives* トハ糞便ノ稠度ヲ變セシムルコトナク只其排泄ノ數ヲ増加セシムルモノヲ云フ

緩下劑 *Laxatives* トハ糞便ヲ粥狀ニ變セシメ前者ヨリ數々下瀉セシムルモノヲ云フ

峻下劑 *Drastics* トハ液便ヲ頻次排泄セシムルモノニシテ通例強キ緊縮様疼痛腹鳴裏急後重 *Tenesmus* 等ヲ伴ヒ大量ハ子宮ヲ收縮セシムルコトアリ

然レモ軟下劑及緩下劑ト雖大量ハ峻下劑的ニ作用スベク峻下劑ノ少量モ亦緩下劑的ニ作用スベキヲ以テ明確ニ斯ル分類ヲ施スコトハ困難ナリトス但シ峻下劑的効驗ヲ呈スヘキ特殊ノ下劑并用法ハ左ノ禁忌症ヲ有セリ即チ腸及腹膜炎ハ爲メニ増炎セラレ月經期妊娠末期ハ骨盤腔ニ充血ヲ來シ易ク痔疾ハ出血ヲ増シ貧血老衰等ハ腸血量減少ノ結果腦貧血ヲ起シ易ク且ツ營養ノ吸收ヲ妨ケラル、虞アリ

蓖麻子油

Oil of Castor

澄明無色或ハ類黄色濃厚ノ液ニシテ特異ノ微臭ト初メ緩和ニシテ後稍苛辣ナル不快味トヲ有ス攝氏零度ニ於テ濃稠トナリ或ハ溷濁シ迪カニ低度ニ至レハ乳脂様ニ凝結ス純酒精及氷醋酸ニ任意ノ比例ヲ以テ溶解シ三分ノ酒精ニ又

溶解ス比重〇・九五—〇・九七ナリ(日本局方藥)

生理的作用

本劑ハ其本能ヲ變セザルトキニ在テハ皮膚ハ勿論口腔及胃粘膜上ニモ何等作用ヲ呈セス只腸管ニ達スルトキ内容アルカリ性液ニ由テ分解セラレ爲メニ生シタル「リチノール酸」 Ricinoul-acid, C₁₈H₃₄O₂ ノ局處的刺戟ヲ以テ蠕動機ヲ促進シ峻下ノ因ヲ醸スニ至ル而シテ藥用量一五〇—三〇〇ニ於テハ緩下作用ヲ呈スルニ止リ殆ント疝痛ヲ伴ハス本劑瀉下ノ原因ハ尙ホ一面其理學的性質ニ依テ糞便ノ通路タル腸壁ヲ滑カニシ以テ其推移ヲ助クルニ在リ但シ大量ハ峻下作用ヲ起シ藥用量ノ持長ハ食慾減退消化障礙等ヲ來スヘシ

應用法并其藥理

主治 乳齒發生期ノ便秘ヲ解除シ或ハ該期ニ於ケル腦症狀例之ハ搖擗不眠不安等ヲ誘導鎮靜スルニ適ス或ハ又急性齒髓炎齒膜炎若クハ牙關緊急ノ如キニ對シテモ腸管充血ヲ起シテ以テ頭蓋部ノ減血ヲ招キ所謂誘導的ニ効驗スヘシ此等ノ用途ニ向テハ一回一五〇—三〇〇ヲ頓服セシメ又ハ同量ヲ卵黃若ク

ハ温湯ニ和シテ灌腸ニ供ス小兒ニハ年齡ニ準シテ五〇—一〇〇—一五〇マテヲ酌量スベシ本劑ノ内用ハ其不快味ニ由テ往々惡心嘔吐ヲ招クカ故三〇〇—五〇〇ノ水上ニ浮游セシメテ水ト共ニ服用シ後直ニ燒酒枸櫞汁薄荷糖等ヲ用キ若クハ暫時梅干ヲ含ムヲ可トス以上ノ他藥物中毒ニ際シ之ヲ排除セシムベク用キラル

處方

蓖麻子油 五〇 白糖 一〇〇 「カ、オ」末 三〇
右調勻爲稀劑五箇—每半時一箇鐘口授(小兒下瀉料)

硫酸マグネシア 瀉利鹽

Sulphate of Magnesia, Mg SO₄ + 7H₂O

無色稜柱狀ノ小結晶ニシテ清涼性苦鹹味ヲ帶ビ中性ニ反應シ之ヲ咀嚼スレハ砂鳴ヲ發ス氣中ニ於テ殆ント風化セス等分ノ水及〇・三分ノ沸湯ニ溶解シ酒精ニハ殆ント溶解セズ(日本局方藥)

生理的作用

通例一五〇以上ハ腹鳴ノ下ニ數回ノ液便ヲ誘起スルモ腹痛ヲ伴フコト少ク亦食慾消化ニ影響ヲ及サス只其持長ニ由リ下痢ノ持續ト共ニ食慾ヲ減シ終ニハ脂肪及體量ノ減少ヲ來スベシ而シテ一五〇以下ニ在テハ著シキ作用ヲ呈セズ腸管ニ達シタル本劑ハ其一部分分解シテ硫酸加里及硫酸曹達ニ變シ大部ハ變化スルコトナク糞便ト共ニ排泄セラレ

應用法并其藥理

主治 蓖麻子油ト同一目的ニ供用セラル本劑モ亦極メテ内服困難ナルカ故水又ハ「ナトロン」水ニ溶解シ且「メンタ」桂皮等ノ調味藥ヲ配スルヲ要ス内用不可能ナルトキハ同量ヲ灌腸スベシ
用量 一回一五〇—三〇〇

第二節 吐劑

胃内容ヲ衝突狀ニ食道咽喉口腔ヲ經テ體外ニ故意ニ排出セシムルトコロノ

藥物ヲ吐劑ト稱シ其作用ノ延髓ニ於ケル嘔吐中樞ヲ亢奮セシムルニ出ヅルモノ例之ハ「アポモルフイン」ノ如キハ之ヲ直接吐劑 Direct-emetics ト云ヒ胃ニ於ケル迷走神經ノ知覺末梢ヲ刺激シ以テ反射的ニ胃横隔膜腹部筋等ヲ收縮セシムルニ出ルモノ例之ハ硫酸銅ノ如キハ之ヲ間接吐劑 Indirect-emetics ト云フ
禁忌症 急性胃加答兒咯血ノ傾向アル肺患動脈瘤心臟重症妊娠末期高老虛弱等

備考 胃洗滌法ノ極テ迅速ニ胃ノ空虛ヲ完フシ且胃壁全部ヲ過不及ナク洗滌シ得ルノ利アルカ爲メ現今多ク之ニ據リ吐劑ノ應用ハ漸次減退シツ、アリ

硫酸銅 膽礬

同様吐劑

Sulphate of copper — Blue-Vitriol, $CuSO_4 + 5H_2O$

藍色透映ノ結晶ニシテ乾燥氣中ニ徐々其表層ヲ風化シ白霜ヲ帶フルニ至ル酒精ニハ溶解セサレトモ三五分ノ水一分ノ沸湯ニ溶解シ收斂性不快味ト酸性反應トヲ有スル深藍色液トナル〔日本局方藥—劇毒〕

生理的作用

本劑作用ノ基因ハ金屬性收斂劑ノ如ク蛋白質ニ及ホス結合カニ在ルモノニシテ硫酸亞鉛ト通同スルヲ見ルベシ

局處的作用

稀釋水溶液ハ粘膜ヲ收斂シ膿稠液ハ却テ之ヲ腐蝕シ其程度加モ硫酸亞鉛ニ勝レリ但シ健康ナル皮膚上ニハ比較的影響ヲ及ホサス之ヲ内用スルニ〇〇三以下ヲ稀釋シタルモノハ口腔ニ鏽樣滋味ヲ與ヘ食慾不振並ニ便秘ヲ來スニ過キカルモ〇二ナルトキハ惡心嘔吐ヲ起シ且ツ下痢ヲ醸スコトアリ是レ胃壁ニ終止セル迷走神經末梢ヲ刺戟スル爲メ反射的ニ嘔吐中樞ヲ亢奮セシムルニ出ツルモノナリ一〇ヲ用ウレハ忽チ劇烈ナル胃腸炎ヲ起シ終ニ不歸ニ入ルコトアリ這際嘔吐物ニ綠色ヲ呈スルヲ常トス是レ即チ急性中毒ナリ

救治法 本劑中毒ニ對シテハ特ニ吐劑又ハ胃洗滌法ヲ要セス是レ自ラ吐出スルヲ得ルヲ以テナリ故ニ主トシテ解毒藥ヲ專用スヘシ假性マクネシア鐵粉鐵酸化加里等ヲ可トス或ハ代用解毒料トシテ鐵屑及硫酸華ヲ混シタル稀粥、牛乳、蛋白、蜂蜜、葡

局處的作用

本劑ノ多量ハ却テ直ニ之ヲ吐出シ盡クス爲メ吸收的作用ヲ呈スルコトナク寧ロ少量ノ内服時ニ於テ胃腸粘膜ヨリ吸收セラル而シテ其主要症狀トシテ舉クベキハ筋麻痺、呼吸及心動ノ減衰等ニシテ終ニハ心臟麻痺ヲ以テ死ニ轉歸スルコトアリ

少量ノ持久特ニ銅器職工ニ在テハ不知不識ノ裡ニ之ヲ吸入シテ終ニ諸部粘膜ノ炎症、身體瘦削、齒齦毛髮汗汁等ノ綠變ヲ徵シテ所謂銅惡液質 Cachexia-Copperitusニ陥リ神經痛、痙攣、振顫等ヲ來スニ至ル之ヲ慢性銅中毒トス

救治法 第一原因ノ驅除ニ努メ第二對症療法ヲ要ス

吸收後一小部分ハ齒齦腺汗腺ヲ經、多部分ハ脾汁ニ伴ヒ尙小部分ハ尿ト共ニ排泄セラレ又吸收セラレザルモノハ腸管ニ於テ硫化銅トナリ糞便中ニ排泄セラル

防腐力 百三十倍溶液ヲ以テ細菌ノ發育ヲ遏止ス

第三章 排泄劑—吐劑

應用法并其藥理

主治 本劑ハ其効驗迅速ニシテ且硫酸亞鉛ニ見ルガ如キ胃傷害作用多カラズ亦吐根吐酒石ニ見ルガ如キ持續性惡心作用ヲ具エザル等ヲ以テ優レリトス
用量一回〇・〇五—〇・五ヲ粉劑又ハ溶劑トシテ每五分—十分時ニ反復シ嘔吐スルニ至テ止ム但シ極量一・〇ヲ超ユベカラズ吐劑ノ用途ハ齒科醫療上極メテ少ク只僅カニ藥物中毒(内用ニ依ル)ニ際シ之ヲ排除スルニ過キズ

極量 一回一・〇(催吐量)

局處的應用 收斂藥トシテ〇・一—〇・五%水溶液ヲ口腔粘液分泌過多症ニ含嗽料トシ或ハ糜孔洗滌ニ用キラル—腐蝕藥トシテ口瘡、窩口瘡ニ對シ純結晶ヲ用キラレ又強水溶液ヲ膿涎破壞ニ用キラル、モ齒牙ヲ黒染スルノ弊アリ—消毒藥トシテ二%—三%水溶液ヲ唾壺ノ洗滌ニ供セラル

配伍禁忌 硫化物鉛鹽鞣酸及其含有物鐵等

齒科藥物學 終

齒科藥物學

早川可美氏

目次

卷	頁	行	正誤
第一	二〇〇	六	三十一「カレイン」
第二	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第三	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第四	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第五	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第六	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第七	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第八	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第九	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第十	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第十一	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第十二	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第十三	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第十四	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第十五	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第十六	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第十七	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第十八	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第十九	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第二十	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第二十一	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第二十二	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第二十三	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第二十四	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第二十五	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第二十六	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第二十七	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第二十八	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第二十九	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第三十	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第三十一	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第三十二	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第三十三	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第三十四	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第三十五	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第三十六	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第三十七	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第三十八	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第三十九	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第四十	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第四十一	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第四十二	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第四十三	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第四十四	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第四十五	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第四十六	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第四十七	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第四十八	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第四十九	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第五十	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第五十一	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第五十二	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第五十三	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第五十四	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第五十五	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第五十六	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第五十七	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第五十八	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第五十九	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第六十	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第六十一	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第六十二	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第六十三	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第六十四	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第六十五	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第六十六	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第六十七	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第六十八	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第六十九	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第七十	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第七十一	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第七十二	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第七十三	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第七十四	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第七十五	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第七十六	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第七十七	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第七十八	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第七十九	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第八十	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第八十一	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第八十二	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第八十三	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第八十四	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第八十五	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第八十六	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第八十七	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第八十八	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第八十九	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第九十	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第九十一	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第九十二	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第九十三	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第九十四	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第九十五	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第九十六	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第九十七	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第九十八	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第九十九	二〇〇	八	三十一「カレイン」
第一百	二〇〇	八	三十一「カレイン」

齒科藥物學終

第三章 排泄劑吐劑

應用法并其藥理

主治 本劑其効驗迅速ニシテ且硫酸亞鉛ニ見ルガ如キ胃傷害作用多カラズ亦吐根吐酒石ニ見ルガ如キ持續性惡心作用ヲ具ス等以テ優レリトス
 用量一回〇・〇五—〇・五ヲ粉劑又ハ溶液トシ毎五分—十分時ニ反復シ嘔吐スルニ至テ止ム但シ極量一〇ヲ超ユベカラズ吐劑ノ用途ハ齒科醫療上極メテ少ク只僅カニ藥物中毒(内用ニ依ル)ニ際シ之ヲ排除スルニ過キズ

極量 一回一〇(催吐量)

局處的應用 敢敢藥トシテ一—五%水溶液、口腔精液分泌過多症ニ含嗽料トシ或ハ糖乳澱粉ニ用キラレ—驅他藥トシ、日痛、口瘡ニ對シ純精晶ヲ用キラレ又強水溶液ハ膿毒破壞、用キラレ、モ齒牙ニ染着、セノ弊アリ—消毒藥トシテ二—三%水溶液ハ呼吸器、洗滌ニ使ハラレ

配伍禁忌 硫化物、鉛鹽、酸及其含有物、銀等

明治四十一年十二月十七日印刷
明治四十二年十二月廿六日再版發行
明治四十三年三月七日三版發行

(正價金壹圓)
(郵發金八錢)

編輯兼 血脇守之助

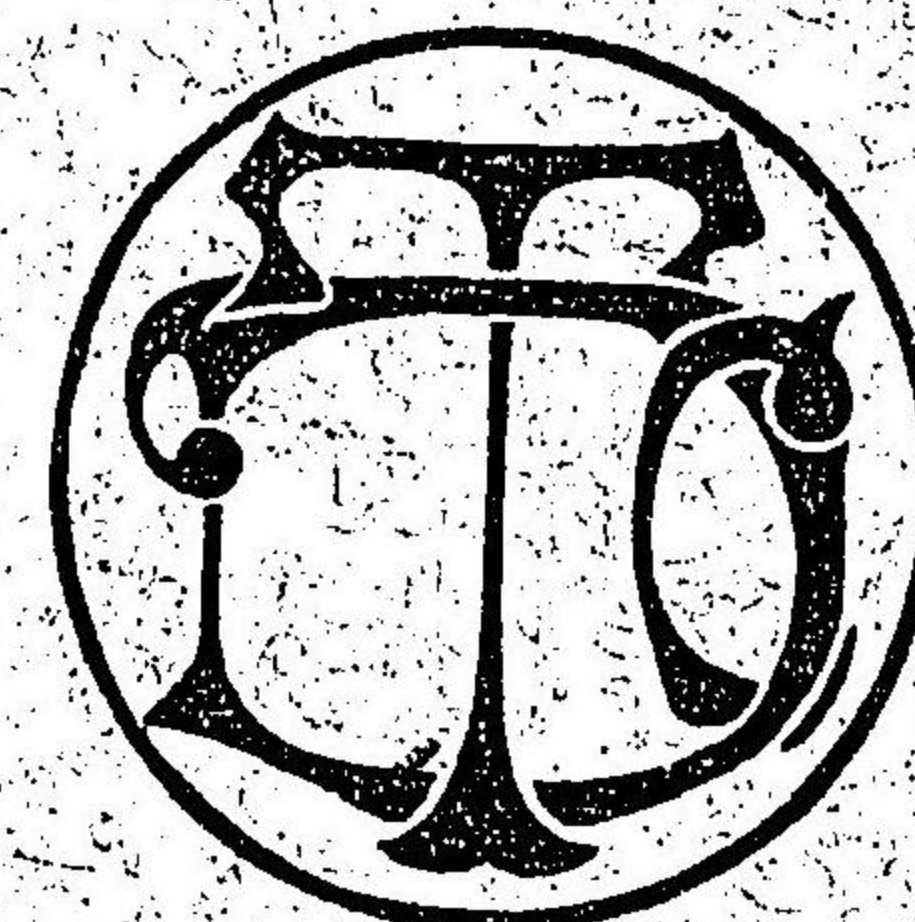
印刷者 中村政雄

印刷所 報文社

發行所 東京市神田區三崎町二丁目九番地
東京齒科醫學專門學校出版部

賣捌所

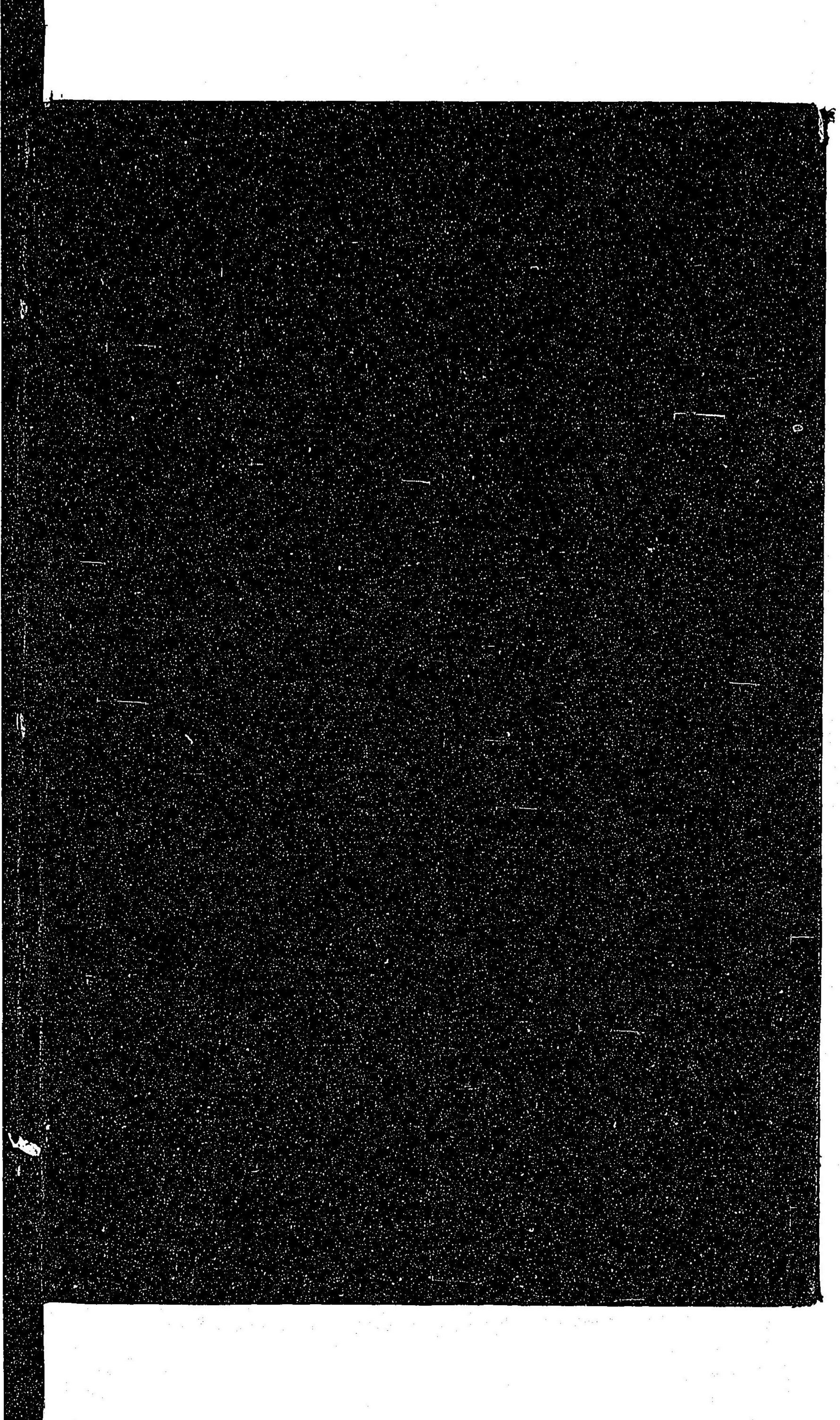
東京 南江堂書店 東京 日本齒科商店
同 同 支店 同 同 山田齒科商店
同 半田屋書店 同 同 中澤齒科商店
同 豐文堂書店 大阪 中井齒科商店



23

58
11
14

10.7.23



58
14

